

導入検討編

1 ICTを活用した住民参画の方法

ICTを活用した住民参画とは何ですか？

キーワード

- ・既存の住民参画手段の課題
- ・ICT活用のメリット
- ・ICT活用の課題と対応策

関連項目

- ・[総論] 3 地域における住民参画の必要性

・住民参画には、地域社会における課題解決に、地域住民がその担い手として参画していくよう、地域コミュニティを再生すること(=「地域社会への住民参画」)と、地方自治体における政策形成の過程に、地域住民が積極的に参画していくこと(=「地方行政への住民参画」)があります。

・既存の「地域社会への住民参画」手段としては、自治会、町内会活動や、学校区を単位としたPTA活動などがあげられます。近所づきあいなども、地域社会への住民参画のひとつの手段と考えられます。最近では、特に都市部におけるコミュニティ意識の希薄化などが問題点としてあげられますが、ICTを活用することによって地域単位のコミュニティに加え、それぞれの住民が関心のあるテーマごとに複層的なコミュニティを手軽に形成することができるようになります。

・一方、既存の「地方行政への住民参画」手段(住民への情報提供を含む)としては、例えば広報紙、審議会、市政懇談会、市政モニター、住民投票などがあります。

・これらの手段は、例えば広報紙の場合、紙面の制約による情報量の制限や発行頻度による情報更新頻度などが、また審議会、市政懇談会などは、開催場所・時間によって出席できない場合があること、開催頻度や討議時間が限られていることなどが、問題としてあげられます。

・これらの既存の手段に対し、ICTを活用した地方行政への住民参画手段としては、例えばホームページ、メールマガジン、Eメールでの意見受付け、電子会議室、電子アンケートシステムなどがあります。

・これらの手段は、従来の方法に比べて、24時間365日好きな場所から誰でも利用できる、情報量の制約がない、過去に遡って検索などでもできる、頻繁に更新し常に最新情報を提供できる、議論が継続的であるなどの長所があります。

・ICTの活用に関しては、高齢者などパソコン利用が苦手な人(世代格差)や、ブロードバンド(高速大容量)回線のサービスが提供されていない地域(地域格差)のような、いわゆるデジタルディバイド(情報格差)の問題があります。また、直接顔が見えないことから生じる成りすましなどへの対策や、電子会議室などで見られる誹謗中傷などの不適切行為への対応、行政内のルール(職員の参加や意見の集約・反映方法など)が未整備といった課題があります。

・これらの課題に対応するため、バリアフリー技術の活用や研修、サポート体制の充実、公的個人認証サービスの活用、電子会議室の運営ガイドラインの作成、行政内ルールの確立、議会や既存の手段との関係整理などを行うことが考えられます。

既存の地方行政への住民参画手段（情報提供を含む）とICT活用との比較

項目	既存手段	ICT（情報通信技術）
活用例	・広報誌 ・市政懇談会 ・審議会 ・市政モニター ・住民投票 など	・ホームページ ・メールマガジン ・Eメール ・電子会議室 ・地域 SNS ・電子アンケート など
長所	○パソコン等の知識が不要で誰でも参加できる ○行政担当者の対応がある程度成熟している ○住民からの意見の活用方策が比較的ルール化されている	○時間的、場所的制約がない ○継続して行政に関わる場の提供が可能 ○障害者等の参加が容易（ただし、障害の内容に応じた対応が必要） ○速報性があり、情報の更新が容易 ○時間・経費が比較的小さい ○いつでも、どこでも、誰でも参加でき、議論がオープン ○年齢、職業、居住地などの属性に関係なく議論が可能
課題 （→は考えられる対応策）	●時間的、場所的制約 ●継続して行政に関わる場の提供が難しい ●障害者等が参加する場合には負担が大きい ●速報性がなく、情報の更新が難しい ●時間・経費がかかる ●市政懇談会等では参加者が地域的に限られる ●行政への苦情や要望など一方的なものになりがち	●パソコン等のリテラシーが必要（デジタルデバイドの問題） →バリアフリー技術やテレビ端末の活用、フォロー体制の確立 ●成りすましや改ざんの危険性がある →公的個人認証サービスの導入 ●誹謗中傷、ネット上の「あらし」 →会議室運営のガイドライン策定（テーマ設定、実名か匿名か、ファシリテータの役割など） ●行政担当者の対応のルールが確立していない →行政内部でのルールの確立 ●住民から提案された意見の活用方策が確立されていない →議会との関係の整理、既存の民意反映チャンネルとの補完関係の整理

ICTを活用した地域社会への住民参画の例 (岡山市電子町内会)

- ・岡山市では、平成 13 年度から、コミュニティの活性化と地域からの情報発信を目的に、ウェブページによる情報発信と電子回覧板、電子掲示板などの会員専用コミュニティ機能を備えた「電子町内会」への取り組みを市民と協働で進めてきました。
- ・平成 18 年 2 月 1 日現在、市内 48 町内会、2807 人が参加しています。



<http://townweb.litcity.ne.jp/d-chounai/>

2 主な ICT 住民参画手段

ICT を活用した住民参画手段には、どのようなものがありますか？

キーワード

- ・電子会議室
- ・地域 SNS
- ・電子アンケート

関連項目

- [導入検討編] 3 地域 SNS とは
- [導入検討編] 6 電子アンケートとは

・ICT を活用した住民参画手段としては、情報提供のためのホームページやメールマガジン、電子メールでの意見受付など様々なものがありますが、ここでは、「電子会議室」「地域 SNS (ソーシャルネットワークサービス)」「電子アンケート」についてご紹介いたします。

[電子会議室]

- ・電子会議室とは、インターネットの画面 (ウェブページ) 上に、参加者が様々な書き込みをして意見交換や議論を展開するものです。議論を円滑にするために、進行役を置く場合もあります。
- ・直接集まる会議と違って、電子会議室は時間や場所の制約がなく、誰でも平等に発言できるメリットがあります。ただし、パソコンや携帯電話を持っていないと参加できないというデメリットもあります。
- ・電子会議室が開設されている地方公共団体の数は、平成16年4月1日現在では900団体を超えていましたが、平成17年4月1日現在では658団体となっており (総務省「地方公共団体における行政情報化の推進状況調査」より)、多くは閑古鳥が鳴いており、不適切発言などにより閉鎖に追い込まれるケースもあるなど、活発に活用されている例はほとんどありません。
- ・電子会議室を有効に活用している例として、藤沢市の市民電子会議室があげられます。藤沢市では 1997 年 2 月の実験開始以降、9 年間にわたり試行錯誤を繰り返し、住民、行政双方が積極的に参加してきました。
- ・藤沢市の場合、電子会議室の登録者数は人口の約 0.6% ですが、住民アンケート (約 0.2%) や、市民モニター制度 (約 0.02%) よりも多い割合を占めています。ひとつの手段で全体をカバーするのではなく、様々な手段の中から住民が選択できることが有効と考えられます。

[地域 SNS]

- ・SNS (ソーシャルネットワークサービス) とは、ブログ (インターネット上で公開する日記風サイト) と電子会議室を組み合わせ、招待制 (友人の招待がないと参加できない) にしたものです。アメリカではフレンドスター、韓国ではサイワールド、日本では mixi (ミクシィ) が、それぞれ参加者数最大の SNS です。
- ・これらの SNS は全国 (あるいは世界) 規模のサービスですが、これを地域での利用、運用に重

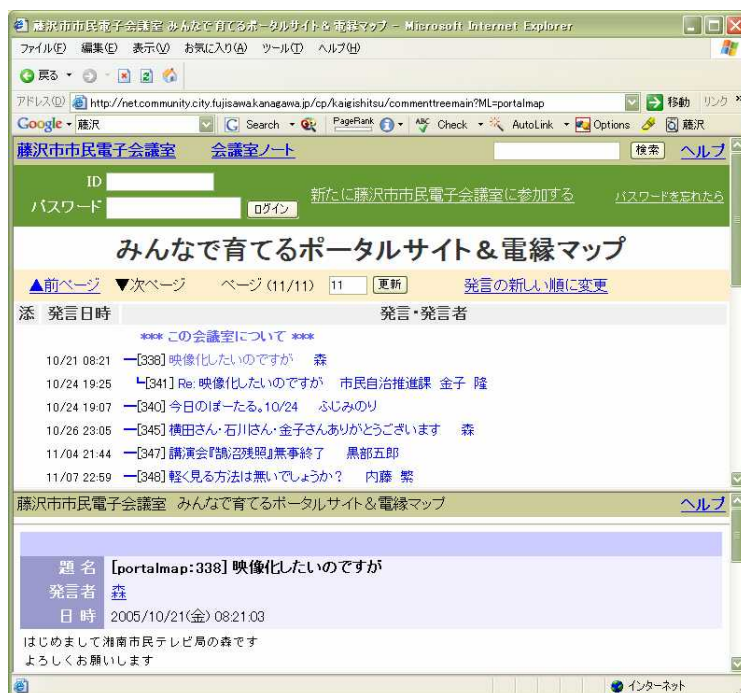
点を置いたものが地域 SNS です。

- ・日本の地方自治体で始めて地域 SNS を導入したのは、八代市の「ごろっとやっちょ」です。八代市では、電子会議室から地域 SNS に切り替えたことにより、参加者が約 3 倍（人口の約 0.3～0.4%から約1%）に増加しました。
- ・今回、開発・実証実験を行った地域 SNS については、別項で詳しくご紹介いたします。

[電子アンケート]

- ・電子アンケートとは、インターネットを用いてアンケート調査を行うもので、画面（ウェブサイト）上で回答します。
 - ・紙で行う場合に比べて、印刷、郵送などの手間やコストが不要であり、より多くの人に、何度も繰り返してアンケートすることができます。また、印刷、郵送、回収、入力の時間が不要または大幅に短縮されることから、結果を得るまでの期間を大幅に短縮できます。
 - ・今回、開発・実証実験を行った電子アンケートについては、別項で詳しくご紹介いたします。
-
- ・地域 SNS や電子アンケートなど、インターネットを使って行うサービスについては、高齢者などより多くの人々の参加を容易にするため、利用できる端末をパソコンから携帯電話、双方向テレビ（地上デジタル放送、CATV）などへと拡大していくことが有効と考えられます。

電子会議室の例：藤沢市市民電子会議室 [再掲]



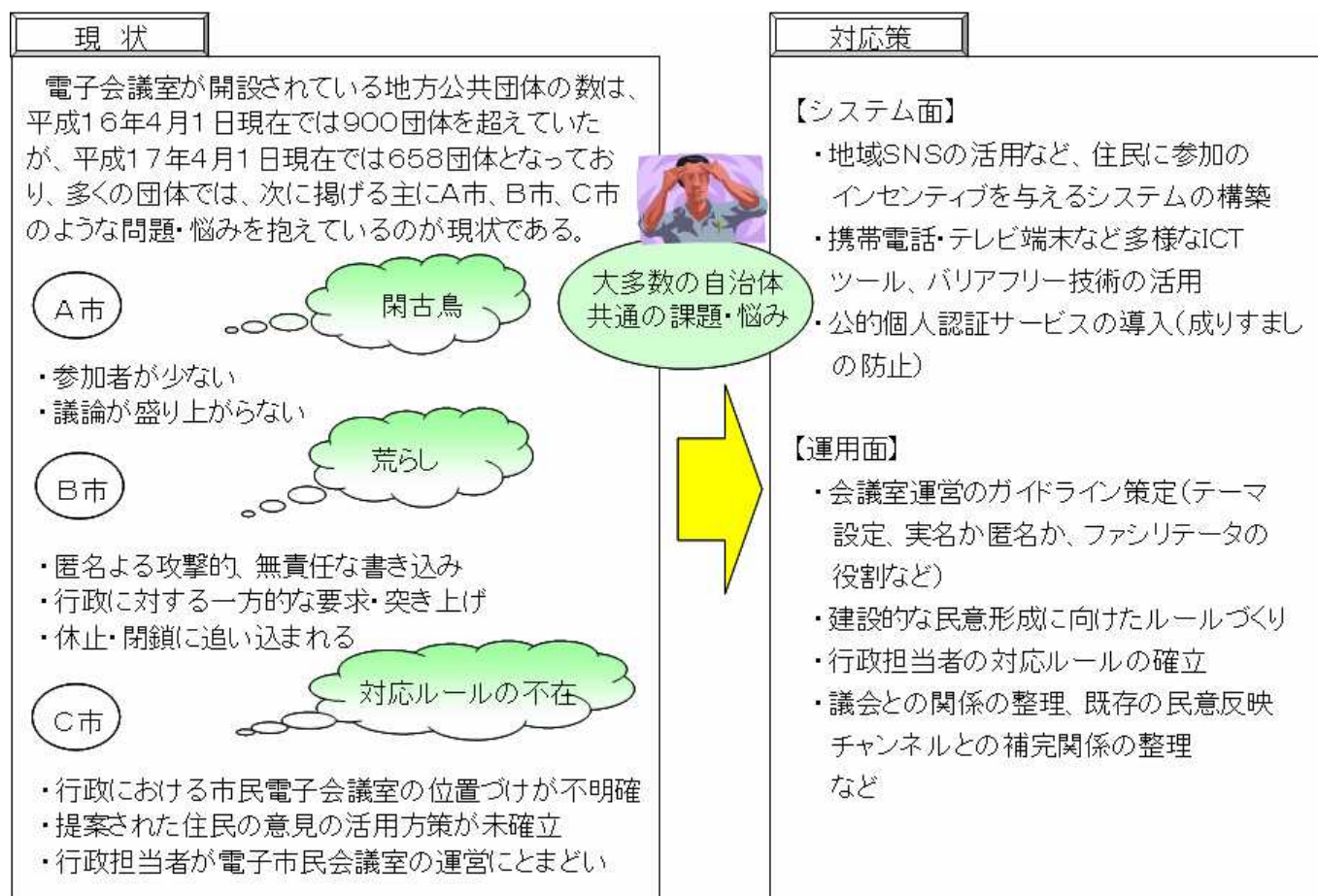
<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/~denshi/>

主な住民参画の手段と特徴 (藤沢市 (人口約 38 万人) を例として)

項目	参加人数	人口割合	属性	特徴
市民電子会議室	登録者 2,600 人	0.6%	男性 66%、20～30 代で 59%.	時間・場所に関係なく参加できる。双方向の議論ができる。
住民アンケート (くらしと情報化に関する市民意識調査 (2005 年実施))	有効回答 702 票 (発送 2,000 票)	約 0.2%	やや高齢者・女性に偏る	科学的に標本抽出を行っており定量的な結果の信頼性が高い。
くらし・まちづくり会議	(運営委員の数、 開催数党は 13 地区毎に異なる)	—	—	地区内の細かなテーマに対して、議論や活動を行うことができる。
市民モニター制度	90 人 (登録者数)	0.02%	—	簡単にアンケート等を行うことができる。
電話・窓口 (要望、クレーム、問い合わせ)	不明 (未集計)	—	不明 (未集計)	気軽に思ったことを言うことができる。
パブリックコメント	(数件～数十件?)	—	—	必ず意見への返事があり、内容により、きちんと計画等に反映される。
選挙 (H16 市長選)	投票数 97,573 人	31.3%	不明	—
地域コミュニティ	—	—	PTA を通じた親、高齢者、自営業者の参加など。学生・勤務者の参加は少ない。	—

資料：藤沢市へのヒアリングなどをもとに作成

国内の電子会議室の現状と対応策

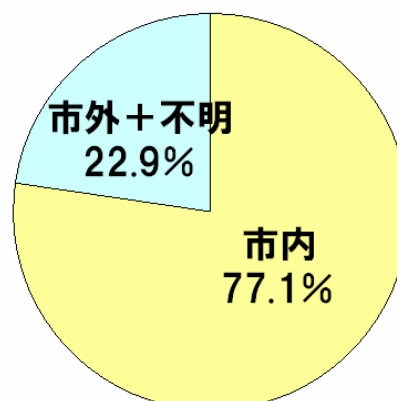
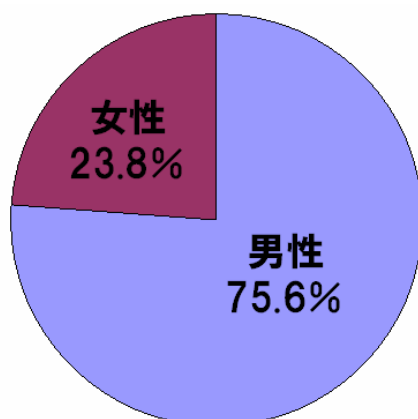


地域 SNS の例: ごろっとやっちょ (八代市) [再掲]



<http://www.gorotto.com/>

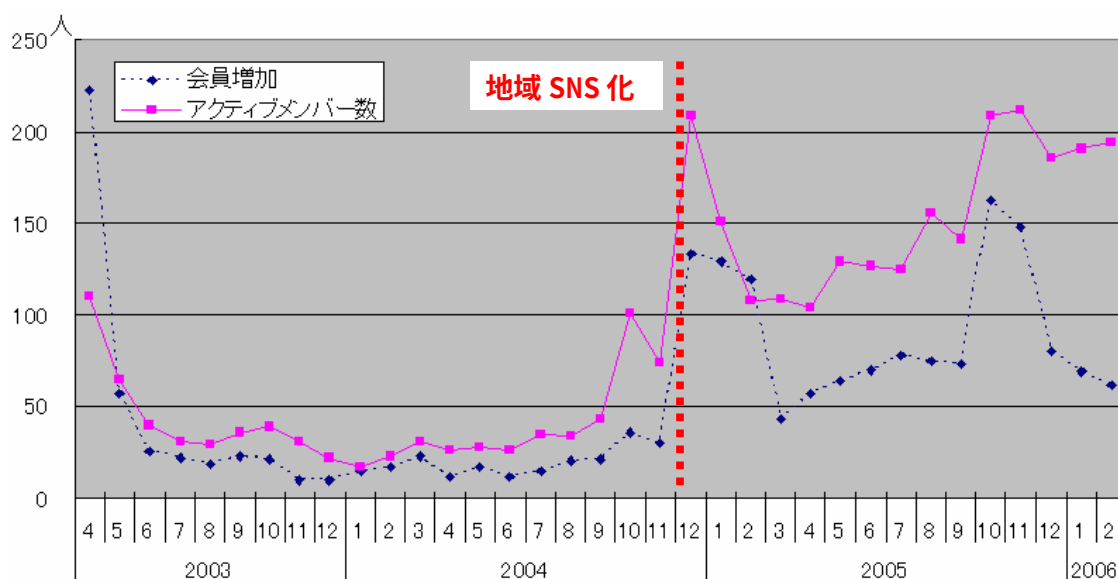
ごろっとやっちょの会員属性



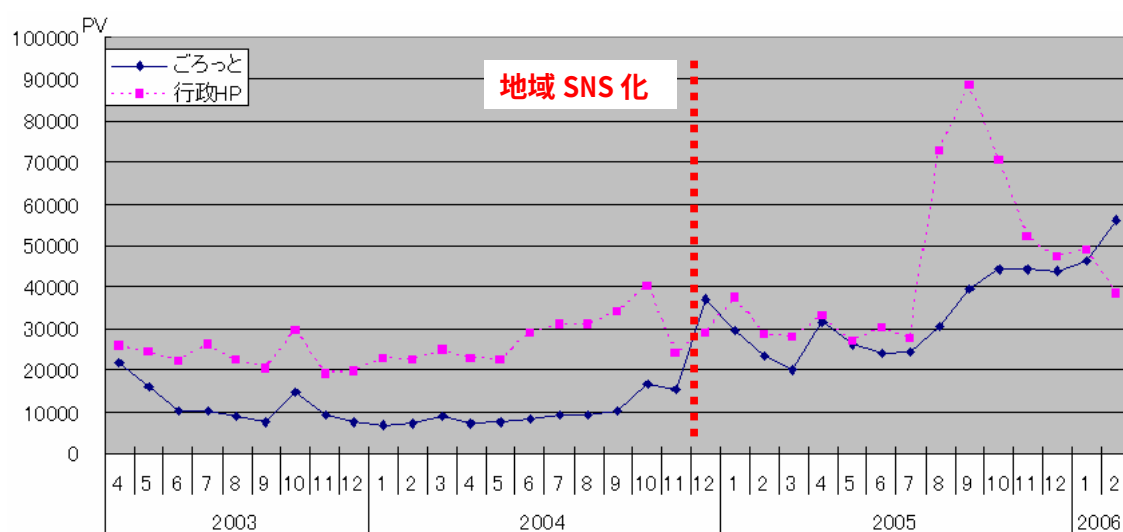
資料: 八代市

ごろっとやっちろの利用状況の推移

●会員増加とアクティブメンバー数



●ごろっとやっちろと行政ホームページのページビュー (閲覧件数)



資料: 八代市

地域 SNS の特徴 (他 ICT を用いた住民参画手段との比較)

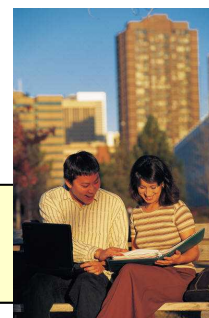
項目	地域 SNS の特徴	他の手段との比較
安心感 (発言しやすさ)	・招待制、プロフィールによる安心感がある。 ・発信者のプロフィール等により、情報の信頼性生まれる。 ・招待制の場合、招待してくれた人に色々と教わることができる。 ・招待してくれた人の手前、マナー違反などは抑制される。 ・メールアドレスを明かさずに、メッセージのやり取りができる。 ・足あと機能により、誰が訪問してきたかがわかる。 ・特定の人からのアクセスをブロックすることができる。 ・プロフィールや日記などについて、段階的 (友人まで、友人の友人までなど) に自己情報の公開範囲を設定することができる。 ・会議室 (コミュニティ) ごとに参加承認制とどうか、公開・非公開を選択して設定することができる。	[電子会議室] ・匿名を許容した場合、情報の信頼性が欠如したり、荒れる可能性がある。 [ブログ] ・公開範囲の設定ができない (原則一律公開)。
利便性 (使いやすさ)	・マイページとして、自らの関心事項に係る新着・更新情報を一覧できる。 ・SNS の中に、掲示板やブログなどの必要な機能を集約できる。 ・地図情報との連携も可能。 ・写真や位置情報付きで携帯電話からの書き込みも可能。 ・発言内容などの修正、削除ができる。 ・メッセージや新規書き込み等があったことをメール配信で通知できる (プッシュ型のメリットも兼ね備える)。 ・RSS を用いて、他の SNS やブログなどの新着情報を集めたり、他に配信することができる。 ・新しい情報が優先的にトップページに表示され、古い情報から表示されなくなる。 ・個人を紹介するポータルサイトになる可能性がある。	[メーリングリスト] ・情報が埋もれやすく、整理しにくい。 ・メールボックスが情報であふれる恐れがある。 ・画像などの添付ファイルが利用しにくい。 ・発言内容の修正、削除ができない。 [電子会議室] ・プル型なので、魅力がないと閑古鳥が鳴く可能性がある。 [ブログ] ・ブログ作成者対読者間の議論になりやすく、多人数での本格的な議論は行いにくい。

電子会議室と地域 SNS



電子会議室
公民館に集まって会議するイメージ
真剣な討議などに向いている

地域 SNS
公園で知り合いと気軽に会話するイメージ
気軽なコミュニケーションに向いている

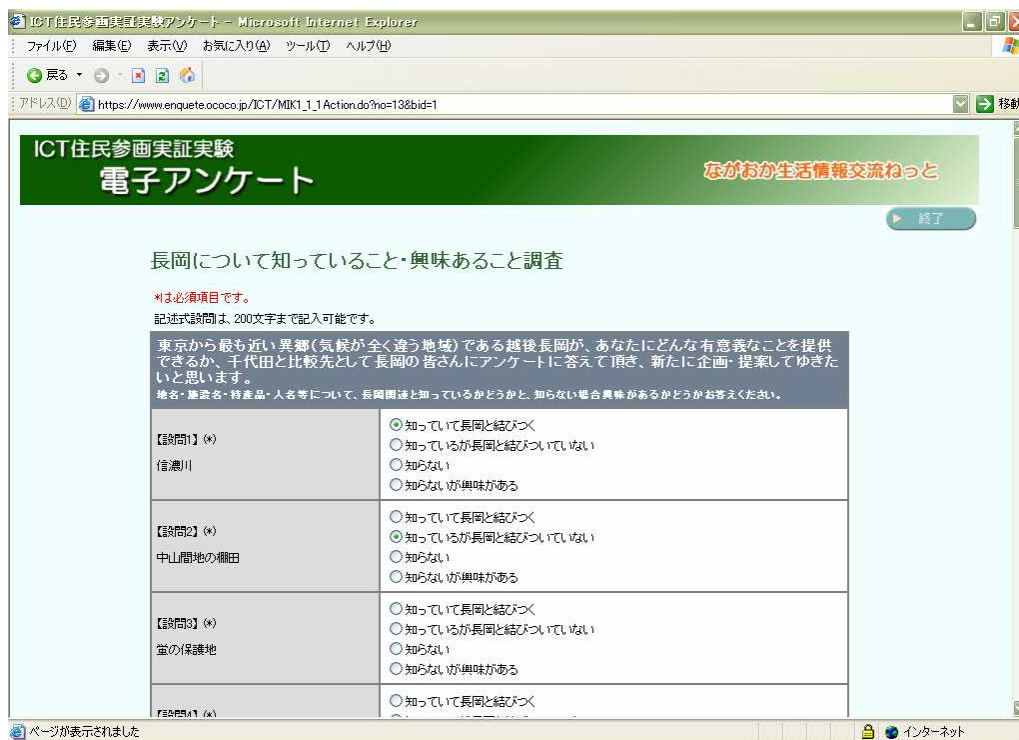


地域 SNS の例（おこなごーか（長岡市））



<http://www.sns.ococo.jp/>

電子アンケートの例（今回の実証実験で行った電子アンケートの画面）



3 地域 SNS とは

地域 SNS ではどんなことができるのですか？

キーワード

- ・個人のポータルサイト
- ・情報公開範囲の設定
- ・日記、フォトアルバム、コミュニティ、地図

関連項目

- [実践編 地域 SNS] 2-2 住民による運営のための体制
- [実践編 地域 SNS] 2-3 より多くの人に参加していただく方策
- [実践編 地域 SNS] 2-4 地域 SNS 間の広域連携
- [実践編 地域 SNS] 5-3 コミュニティ機能の活用方法
- [実践編 地域 SNS] 5-6 まちかどレポーター
- [実践編 地域 SNS] 5-7 コミュニティでの電子アンケートシステムの活用方法
- [実践編 地域 SNS] 5-8 携帯電話からの地域 SNS の利用
- [実践編 地域 SNS] 7-1 災害発生時の活用方法

・地域 SNS の主な機能としては、下表のようなものがあげられます。各機能については、次頁以降でご紹介いたします。なお、地域 SNS の活用方法については、実践編にも掲載していますので、あわせてご参照ください。

地域 SNS の主な機能

機能	概要
トップページ	トップページ（ログイン後、最初に表示される各利用者のページ）には、友人の日記や参加しているコミュニティなどの最新情報が表示されます。また、地域 SNS の運営者や行政からのお知らせなども表示されます。自分が関心のある情報を集約して一覧表示できることから、個人のポータル（入り口）サイトとして利用することができます。
公開範囲の設定	地域 SNS では、個人のプロフィールや日記などを、地域 SNS の参加者などに公開しますが、公開範囲を、たとえば友人までに限定するなどの設定ができます。プロフィールの項目ごと、あるいは日記ごとに、公開範囲を変えることもできます。
日記	日記を書いたり、友人などの日記を読むことができます。日記にコメントをつけることもできます。
フォトアルバム	自分で撮った写真などを登録してアルバムを作ることができます。日記と同じように公開したり、コメントをもらうこともできます。
コミュニティ	参加者同士が気軽に意見交換、情報交換する場です。地域 SNS 参加者なら誰でも、新しくコミュニティを開設することができます。
地図	日記やフォトアルバム、コミュニティのコメントなどについて、地図上に位置を示すことができます。逆に地図からコメントなどを表示することもできます。
まちかどレポーター	まちかどレポーターを任命し、日ごろから街の情報を提供します。災害時には各地域の災害情報発信の役割を担います。
災害時の画面切り替え	災害時などには、災害情報提供用の画面に切り替わり、行政などからの災害情報を充実するとともに、専用コミュニティを立ち上げ、「まちかどレポーター」などが各地の状況を報告します。
携帯電話からの利用	地域 SNS の多くの機能は、携帯電話からでも利用できます。
地域 SNS 間連携	信頼できる地域 SNS 間をつないで相互に交流できます。

ログイン画面 (最初の画面)

- ・多くの SNS は、参加者からの招待が必要ですが、この地域 SNS は、招待がなくても参加登録することができます。
- ・「自動ログイン」にしておくと、次回からログインが不要となり、直接トップページが表示されます。
- ・参加登録しなくても、ゲスト利用者として、以下の情報を見ることができます。

[お知らせ]

- ・運営者からのお知らせ
- ・行政からのお知らせなど

[日記、コミュニティ、フォトアルバム]

- ・「一般に公開」(地域 SNS の外にも公開) 設定しているものは、見ることができます。

千代田 Chiyoda
地域 SNS コミュニティ

「千代田 地域SNS」は千代田地域の皆さんが主
人公のコミュニティです。

ログイン 登録 登録ガイド 検索

アクセス制限 フォトアルバム 個人設定 プロフィール 友人の検索

Home トップページ Diary 日記 Community コミュニティ Mail メール Photo album フォトアルバム Event 遠征カレンダー Map 地図

お知らせ

運営者からのお知らせ

- 1月31日(火) ... 長岡のアナウンサーにご協力ください
- 1月27日(金) ... 一般アンケートモニター、まだ募
- 1月25日(水) ... クラウド検索により御迷惑をおか

行政からのお知らせ

- 2月2日(木) ... プレシリリース情報
- 1月31日(火) ... 本格的な電子アンケートを実施!
- 1月30日(月) ... プレシリリース情報

気象情報

- 2月2日(木) ... 晴れ 最高気温 10.5度

外島 氏

【2006年2月】カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

<< 前月 次月 >>

予定あり 日記あり イベント参加あり 今日

ゲスト (0)

地域SNS
ソーシャルネット
ワークサービス

すべてのコンテンツを利用するには、ログイン
を待ってログイン画面から、または下
のログインボックスからログインできます。

電子メールアドレス
masioan@ri.co.jp

パスワード

☐次回から自動ログイン ログイン
パスワードをお忘れの場合

ログインすると、メンバーの日記、掲示板、プロフィールなどを見たり書いたり、サ
ーバルに参加したりなど、すべての機能を
利用することができます。[グ
ストの状態では全公開の機能のみを表現
しています]。
掲示板も、グストの状態では見ることが
できないものが多数ありますので、是非
ログインしよう!

千代田 地域SNSによるこそ

千代田 地域SNSとは、
入会する
ご利用ガイド

トップページ (参加者それぞれの最初のページ)

- ・トップページは、利用者それぞれが関心のある情報を集約して、一覧表示できますので個人のポータル (入り口) サイトとして活用できます。
- ・災害時には災害用画面に切り替わり、行政やコミュニティによる災害情報を入手できます。

The screenshot shows the Chigoda Local SNS Community website. The top navigation bar includes links for Home, Diary, Friends, Community, Mail, Photo Album, and Calendar. The main content area is divided into several sections:

- まじしゃんさん (20代)**: Profile section with a photo and a link to the user's diary.
- お知らせ**: Announcements section with a list of recent posts from various users and organizations.
- 友達の日記の新着情報**: Recent diary entries from friends.
- 自分が参加しているコミュニティの新着情報**: Recent updates from communities the user is part of.
- 友達のフォトアルバムの新着情報**: Recent photo album uploads from friends.
- 予定・イベント情報**: Upcoming events and schedules.
- まじしゃんの日記**: The user's own diary entries.
- まじしゃんのフォトアルバム**: The user's own photo album.
- 2008年2月カレンダー**: A calendar for the month of February 2008, showing dates and events.

●地域SNS運営者からのお知らせ

●行政からのお知らせ

●友達の日記の新着情報

●自分が参加しているコミュニティの新着情報

●友達のフォトアルバムの新着情報

●その日の予定やイベント

●自分の日記

●新着メール

●自分の日記などへの新着コメント

●自分のフォトアルバム

●カレンダー (自分の予定やイベント情報など)

公開範囲の設定

- ・個人のプロフィールや日記、フォトアルバムなどの公開範囲を「友人まで」「友人の友人まで」「地域 SNS 内に公開」「広く一般に公開」のように、段階的に選択できます。プロフィールの項目や、日記ごとに設定を変えることもできます。

自分のプロフィールの公開範囲を項目ごとに設定できる

日記やフォトアルバムの公開範囲を設定できる

- ・プロフィールは、下図のような形で他の人に公開されます（公開範囲の設定によっては、表示されない項目があります）。

●ともだち以外の画面例

The screenshot shows the profile page of a user named 'ひでくま21:50さん (43)' on the '千代田 Chiyoda 地域 SNS コミュニティ' website. The page layout includes a top navigation bar with links like 'Home', 'Diary', 'Friends', 'Community', 'Mail', 'Photo album', 'Calendar', and 'Map'. Below this is a sub-navigation bar with 'アクセス', 'ブックマーク', '個人設定', 'プロフィール', and '友人を招待'. The main content area is divided into several sections: a profile picture and name, a 'プロフィール' (Profile) section with details like 'ハンドル' (hikuma21:50), '性別' (Male), and '血液型' (B-type), a 'ひでくま21:50さんの日記' (Diary) section with recent entries, and a 'ひでくま21:50さんのフォトアルバム' (Photo Album) section. On the left side, there is a 'ともだち' (Friends) section showing a list of friends with their avatars and names.

●ともだちの画面例

This screenshot shows the same profile page as the previous one, but with more detailed information visible in the 'プロフィール' (Profile) section. The details include: 'ハンドル' (hikuma21:50), '本名' (Name), '居住所' (Residence: 東京都北区), '年齢' (Age: 42歳), '誕生日' (Birthday: 10月00日), '性別' (Male), '血液型' (B型), '趣味' (Hobbies: スポーツ観戦, 温泉, ゲーム, パソコン, インターネット, 料理, ダイエット), '職業' (Occupation: リサーチマン), '所属' (Affiliation: NIT テーマOP), '好きなスポーツ' (Favorite Sports: サッカー・バスケット), '好きな料理' (Favorite Food: 現代国産(市丸は苦手...でも、大系です)), and '好きな音楽' (Favorite Music: 最近のお気に入りには、小西康晴). The '日記' (Diary) section also shows more entries with dates and titles. The 'フォトアルバム' (Photo Album) section shows a list of albums. The 'ともだち' (Friends) section on the left shows a list of friends with their avatars and names.

日記

- ・日記を書くことができます。写真も添付できます。
- ・自分が書いた日記の公開範囲を、日記ごとに設定できます。
- ・日記には、友人などがコメントをつけることができます。それにさらに自分や他の友人がコメントをつけることもできます。
- ・同様にして、友人の日記（公開しているもの）を読んだり、コメントをつけることもできます。

千代田 Chiyoda
地域 SNS コミュニティ

日記の閲覧とコメントの登録

まじしゃんさんの日記

まじしゃんさん 1月21日(土) 18時29分

雪（生活） 公開範囲

コミュニティにだけ書いて、自分の日記に書くのを忘れました（苦笑）。
天気は久しぶりのまともな雪です。

日記の削除 日記の編集

タイラーさん コメント日：1月22日(日) 5時57分

すんげー、をれいだ。雪も大変だけど降ると、ワクワクしたり、懸けあったり、滑められたり、いいでしょう。

コメントは、1～5000文字以内で入力してください。
先中二番目を除く 除く二番目の全長

水選択
他の記事を選択

日記の一覧表示と検索

公開されている日記が表示されています。日記の表示について、キーワードによる全文検索をおこなうことができます。
※トップページ右下の「日記を書く」ボタンでも日記を書くことができます。

最新日記 ともだちの日記 まじしゃん日記 日記全文検索

「日記を書く」ボタンから、自分の日記をつけることができます。 [日記を書く] [次へ]

	日付	2月17日(金) 20時07分
	タイトル	おこなごーか 公開
	内容	さっせから、長岡の地域SNS、落ちてませんか？
	関連カテゴリ	JCT関連
	日付	2月10日(金) 14時09分
	タイトル	長岡地域SNSが笑害モードに 公開

フォトアルバム

- ・写真を登録して、自分のアルバムを作ることができます。
- ・アルバムは、写真ごとに公開範囲を設定できます。公開した写真に対して、友人などがコメントをつけることもできます。

千代田 地域SNSコミュニティ

千代田 地域SNSコミュニティは千代田地域の皆さんが
みんなのコミュニティです。

アクセス履歴 ブックマーク 個人設定 プロフィール 友人を招待

Home トップページ Diary 日記 Friends ともだち Community コミュニティ Mail メール Photo album フォトアルバム Calendar 週間カレンダー Map 地図

テーマへのコメント登録

閲覧しているテーマに対して、コメントをおこなうことができます。

ひでくま21:50さんのフォトアルバム

ひでくま21:50さん

8 正月の秋葉原 [\[公開範囲\]](#)

新年二日に秋葉原に行ってきました。
撮影目当てだったのですが、時間が遅かったこともあって収穫なし・・・

秋葉原中央通り
2月10日 土 14時 分

秋葉原中央通りその2
2月10日 土 14時 分

秋葉原中央通りその3
2月10日 土 14時 分

じゅんがらカーテン
2月10日 土 14時 分

秋葉原の夜景
2月10日 土 14時 分

■ 積理さん コメント日: 1月10日(火) 8時55分

フォトアルバムの閲覧と検索

公開されているフォトアルバムの画像が一覧で表示されています。また、拡大・検索を行うことが可能です。
※検索を行わない状態では、登録範囲に閲覧可能な画像が表示されています

最新フォトアルバム | [ともだちのフォトアルバム](#) | [まじゅんフォトアルバム](#) | [フォトアルバム検索](#)

「画像の登録」ボタンから、自分のフォトアルバムに画像を登録することができます。 [\[画像の登録 \]](#)

[前へ] [次へ]

日付	2月2日(木) 21時07分
テーマ	2003さっぽろ雪祭り [公開範囲]
概要	今年もさっぽろ雪まつりという事で、2003年に行った時のさっぽろ雪祭りの様子をUPしました。
画像登録枚数	8枚
画像 (最新の5件を表示)	    

ゆべたんさん

日付	2月1日(水) 18時47分
テーマ	掛川城と掛川城下町 [公開範囲]
概要	兩名が辻の戦合掛川城とその周辺の写真を公開します。掛川城は金田城の本城本格復元のお城です。

コミュニティ

- ・コミュニティとは、参加者同士が気軽に情報交換、意見交換できる場所です。地域 SNS 参加者なら誰でも、コミュニティを開設することができます（開設した人が管理人になります）。公開、非公開や、参加に当たって管理人の承認を必要とするかどうかを、管理人が設定できます。
- ・管理人は、自分が開設したコミュニティの管理責任を持ちます。不適切な発言や行為に対して注意したり、場合によっては参加を取り消すなどの措置をとります。
- ・コメントには写真をつけることもできます。また、「共有フォルダ」を利用して、参加者間で様々な電子ファイル（音声ファイル、動画ファイルなどを含む）を共有することができます。
- ・その他、参加者から意見を聞く「アンケート機能」、他人のコメントに賛同したときの「拍手機能」、コミュニティのイベント案内などができる「イベント機能」などがあります。
- ・行政が自ら開設、あるいは行政公認の上開設したコミュニティを「公認コミュニティ」と呼びます。



千代田と札幌のいい関係

楽楽さん: 2月17日(金) 7時00分

札幌の情報サービス業

現在、各地域の情報サービス業の実態を数字で整理しているところです。(特に電子自治体投資との関係で)

その関係でお尋ねしたいのですが、
北海道の電子自治体投資のお金の流れはどうなっていたでしょうか？

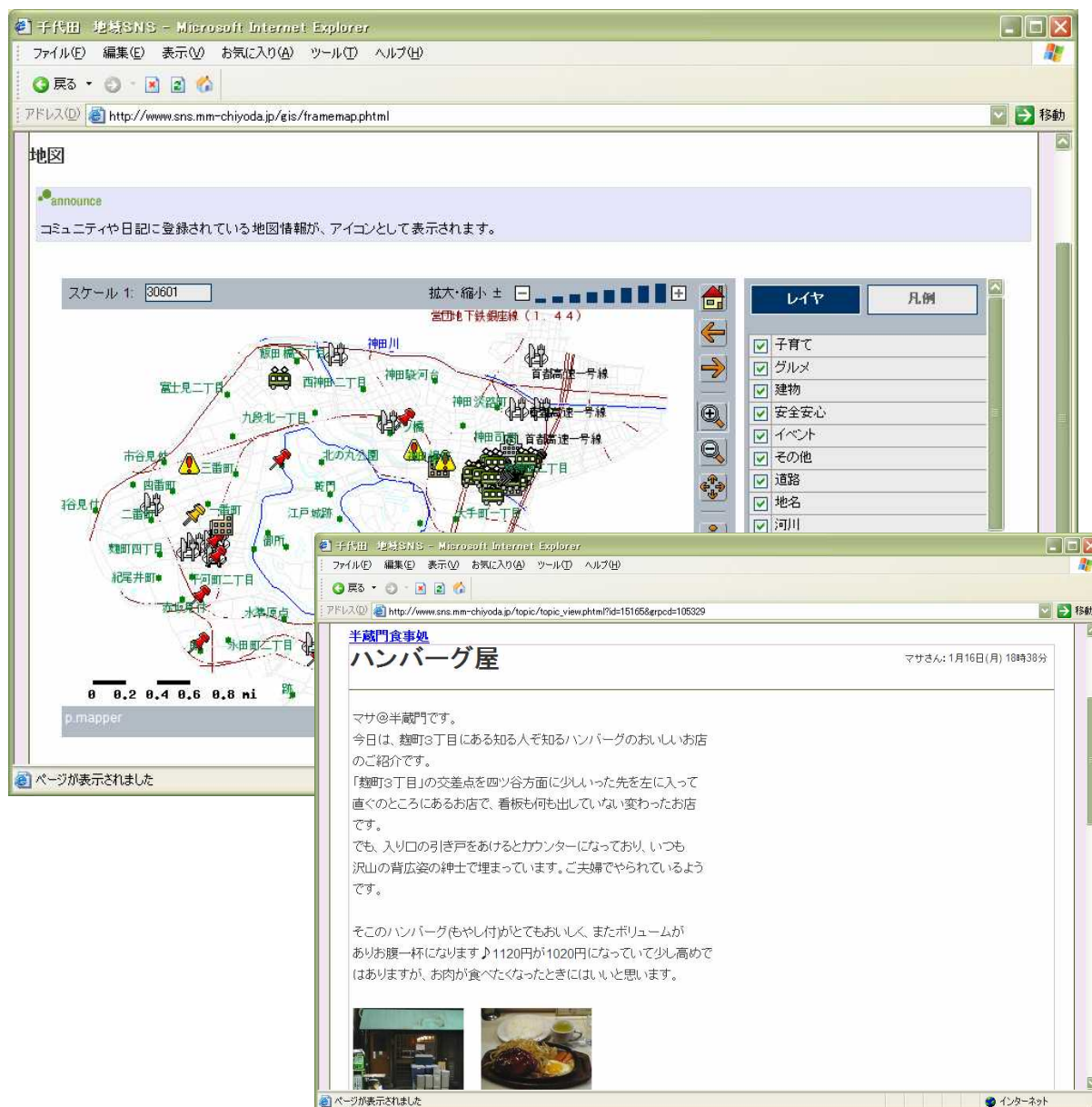
●北海道の自治体→札幌支店で受注→東京本社の開発部隊
というのが結構多かったのでしょうか(2000年時点)。

というのは、2000年時点の地域産業連関表を見てみると

- 1) ソフトウェア開発などの「ソフトウェア業」(は、北海道から関東に仕事が出て行き(関東からの移入としてあらわれる)、
 - 2) データ入力などの「情報処理・提供サービス」では、他地域から北海道に仕事が入っている(他地域への移出としてあらわれる)
- という特徴があります。

地図

- ・日記やコメントなどに対して、地図上で位置を示すことができます。
- ・地図上のアイコン (印) から、日記やコメントをたどることもできます。



まちかどレポーター

- ・日常的には街の様々な情報や渋滞情報などを発信し、災害発生時には、地域の災害情報などを発信する役割を担うのが、まちかどレポーターです。
- ・まちかどレポーターは、公募、研修の上、認定します。まちかどレポーターになると、地域 SNS の中で、まちかどレポーターのマークがつきます。

ICT住民参画システム (H17年度に開発したシステム)

- ◆住民同士のコミュニケーション
- ◆コミュニティネットワークの形成
- ◆地域情報の発信
- ◆アンケート機能の活用 など



写真・コメント



地域住民
NPO等



まちかどレポーター



様々な地域情報



レクリエーション、
イベント



旬、特産品



子育て、教育



バリアフリー



不審者



災害時

災害時の画面の切り替え

- ・災害時など地域 SNS の運用者が必要と認めた場合、地域 SNS の画面を災害時用に切り替えます。技術的には地震情報などをもとに自動で切り替えることも可能です。
- ・災害時にはこの画面を用いて、行政などからの災害情報を充実して提供するとともに、災害用の専用コミュニティを立ち上げ、まちかどレポーターが各地の災害状況などを報告します。

● 平常時

「おこなごーか」は長岡地域の皆さんが主人公のコミュニティです。

入会する ご利用ガイド ログアウト

アクセス履歴 ブックマーク 個人設定 プロフィール 友人を招待

Home トップページ Diary 日記 Friends ともだち Community コミュニティ Mail メール Photo album フォトアルバム Calendar 週間カレンダー Map 地図

お知らせ

- 2月14日(火) ... 実証実験終了後の地域SNSの継続運営について
- 2月11日(土) ... 地域SNSの利用に関する意識調査にご協力ください。
- 2月11日(土) ... 雪害情報をありがとうございました
- 2月15日(水) ... 長岡市営スキー場の閉場について(長岡市)
- 2月15日(水) ... 積雪重量に注意してください(長岡市)
- 2月14日(火) ... なだれ・融雪に対する警戒(長岡市)
- 明日(2/22)の天気「晴れのち一時雨」...
- 2月17日(金) ... 悠久山で登山しを行いました(長岡市災害ボランティアセンター)
- 交通死亡事故発生!! (長岡地区防犯組合連合会BLOG)

新着情報

日記

- 2月22日(水) ... 満天の星空ま... (こしくわさん): 百山紀行さん
- 2月21日(火) ... ホームページ作成研修 電子録の第2弾(エコキッズさん): エコキッズさん
- 2月21日(火) ... 雪しか祭 その3(もりもりさん): こしくわさん
- 2月21日(火) ... 味噌づくり その2(もりもりさん): もりもりさん
- 2月21日(火) ... 雪の魔術「凍み溜り」(こしくわさん): こしくわさん
- 2月21日(火) ... 「凍」の手料理(やっば手料理!)
- 2月15日(水) ... 携帯からの利用について(地域SNSについて考える)



● 災害時

地域SNS リーショナルネットワーク サービス

災害情報配信中

入会する ご利用ガイド ログアウト

ブックマーク 個人設定 プロフィール 友人を招待

Home トップページ Diary 日記 Friends ともだち Community コミュニティ Mail メール Photo album フォトアルバム Calendar 週間カレンダー Map 地図

お知らせ 災害時の緊急情報をお知らせします。

- 2月9日(木) ... システムメンテナンスの実施について
- 2月9日(木) ... まちかどレポーターを認定しました
- 2月7日(火) ... システムメンテナンス終了いたしました
- 2月10日(金) ... 災害時モードへの切り替えについて
- 2月8日(水) ... 行事予定表(2月11日~20日)を掲載しました(長岡市)
- 2月8日(水) ... 「ICT未来フェスタ」長岡会場のイベント(長岡市情報)
- 今日(2/10)の天気「晴れのち雪か雨」...
- 2月5日(日) ... 2月5日の活動(長岡市災害ボランティアセンター)
- 『振り込み詐欺』発生!! (長岡地区防犯組合連合会BLOG)

緊急情報 災害コミュニティ、災害地図情報、その他公式情報のお知らせです。

災害コミュニティ 地域SNS内コミュニティ情報 災害地図情報 地図サービスによる災害情報

公式情報リンク

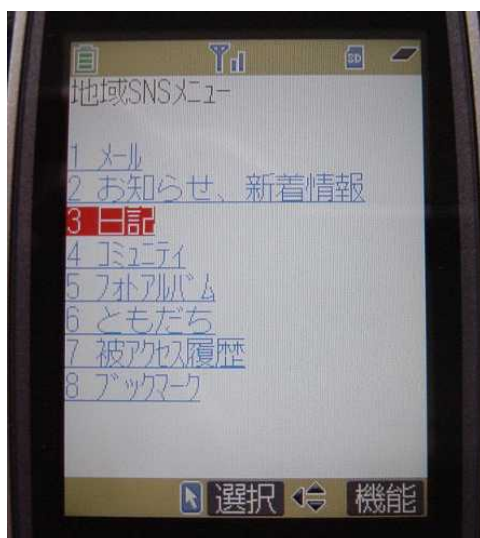
長岡市雪情報／雪害対策本部 新潟県防災情報

携帯電話からの利用

・地域 SNS の多くの機能は、携帯電話からでも利用できます。

携帯電話から利用できる機能

機能	概要
メール	メールを書いたり、読んだりできます。
お知らせ、新着情報	運営者や行政からのお知らせを読んだり、新着情報（日記、コミュニティなど）を確認することができます。
日記	日記を書いたり読んだりできます。携帯電話のカメラで撮影した写真を添付することもできます。
コミュニティ	コミュニティのコメントを読んだり、コメントを書いたりできます。新しくトピックをたてることもできます。
フォトアルバム	フォトアルバムを見たり、写真を保存、公開したりできます。
ともだち	ともだちのページを見に行くことなどができます。
被アクセス履歴	自分のページを見にきた人を確認できます。
ブックマーク	気に入った人のページを登録、閲覧できます。



4 SNS と地域 SNS の違い

SNS と、地域 SNS の違いは何ですか？

キーワード

- ・リアルコミュニティとの連動
- ・災害時活用
- ・分散型オープンネットワーク

関連項目

- [実践編 地域 SNS] 2-4 地域 SNS 間の広域連携
- [実践編 地域 SNS] 5-6 まちかどレポーター
- [実践編 地域 SNS] 7-1 災害発生時の活用方法

- ・SNS の多くは、全国を対象としてサービスを提供しています。一方、地域 SNS は、特定地域を対象とした利用を想定しており、主に以下の特徴があります。

地域 SNS の特徴 (民間 SNS 等との違い)

(1) リアルな地域社会との連動

- ・地域 SNS は、顔の見える実際の地域社会と融合した利用が中心となります。勧誘などの電子メールや誹謗中傷が横行する電子掲示板のような既存のインターネットサービスとは一線を画し、信頼性の高いコミュニティサイトを目指します。機能的には、以下のような要素が特徴として挙げられます。
 - 地図 (GIS) との連携
 - ・地域住民にとって地図情報は直感的にわかりやすく有効です。
 - まちかどレポーター
 - ・顔の見えるまちかどレポーターがマスコミでは流れないような地域情報を写真・コメント付きで発信します。災害時にも日頃使い慣れたシステムで地域情報を共有します。
 - 地域情報の提供
 - ・行政機関等から気象警報、火災情報、不審者情報などをタイムリーに提供します。事前に登録した関心分野についての情報をメールで配信します。
 - 電子会議室機能の充実
 - ・電子アンケートと連携して、住民ニーズの把握や意見交換の仕組みとして活用できます。

(2) 災害時利用

- ・普段は地域 SNS として友人同士のコミュニケーションなどに活用し、いざ災害が起きたら、画面が災害時モードに切り替わります。地震情報などをもとに、自動で切り替えることも技術的には可能です。マスコミではなかなか伝えられない、被災者が本当に必要とする情報を届けたり、顔の見えるまちかどレポーターが信頼のおける被災情報をアップしたり、各自が自分の安否情報を掲載するなど、他のメディアと補完しながら有効な情報源のひとつとして機能します。

(3) 分散型オープンネットワークの形成

- ・地域 SNS は、地域に根ざしたコミュニティとして地域単位での展開を図ります。これは、セキュリティ、アクセス負荷分散、管理負荷分散、災害時の相互バックアップなどの点でも利点があります。また、信頼できる地域 SNS 同士を相互につなぐしくみを構築し、安心して利用できるネットワーク上の場をつくり出します。
- ・参加者の招待がなくても、実名を登録し、ログインすることで、メンバーの日記、掲示板、プロフィールなどを見たり書き込んだり、様々な機能を利用することができます。
- ・実名を登録せず、ログインしなくても、行政情報や公開範囲を地域 SNS の外まで設定したコミュニティ、日記等の情報は閲覧できます。

・また、地域 SNS は、他の多くの SNS と異なり、地域 SNS の外への情報発信も可能です。情報発信ツールとしての地域 SNS の可能性について、ながおか生活情報交流ねっとの桑原さんにお話を伺いました。

検索エンジンで、例えば、「長岡」「グリーンツーリズム」で検索すると、長岡の地域 SNS「おこなごーか」が一番上に表示されます。他にも、「長岡」と、「災害」「緊急」「鉄道事故」「凍み渡り」などで検索しても、上位に表示されます。これは閉じた SNS では無かったことです。

地域 SNS の中で、まちづくりや災害、その他語られている内容を検索エンジンで見つけられることは画期的なことだと思います。

検索エンジンの対象としても優秀な構造なようですので、いま少し進展すればおこなごーかの記事が長岡に関する様々なキーワードで上位表示ということになるかもしれません。



桑原さん

一般に開かれた地域 SNSこそインターネット的であり、閉じた SNS はそれに比べてパソコン通信を連想させます。参加しなければ見つけられない記事は社会に対する影響力は少ないと思います。数百万人の閉じた SNS より、数百人のおこなごーかの方が、インターネット全般・社会に与える影響は有る部分大きかったりするのではないかと思います。

中越地震の際、閉じた SNS で様々な情報が蓄積されたようですが、参加者の方しかその貴重な記事に触れていないのではないかと思います。検索エンジンに開放されている、外部への RSS、トラックバック等により、地域 SNS は新しいインターネットの世界を作り出すツールになりそうな気がします。(談)



検索結果の例

5 地域 SNS の費用

地域 SNS の費用はどのくらいかかりますか？

キーワード

- ・導入経費、運用経費
- ・電子会議室システム事例との比較

関連項目

- [実践編 地域 SNS] 1-2 システム導入方法のケース
- [実践編 地域 SNS] 1-3 導入ケース別の必要経費
- [導入検討編] 7 電子アンケートの費用

- ・地域 SNS の費用は、導入経費（サーバなどのシステム構築費用など）と、運用経費（システムの維持費や運営にかかわる委託費、運営委員等への謝礼など）に大別されます。
- ・導入経費については、既存のサーバ（インターネットに公開されているウェブサーバやデータベースサーバなど）に標準版のソフトウェアを導入する場合は、ほとんどお金はかかりません。
- ・ただし、独自の画面デザインに変更するなど、導入時に独自改修を行う場合は、その程度に応じて費用がかかります。また、新たにサーバを購入したり、外部のデータセンターを利用する場合は、購入費用や委託費用がかかります。
- ・なお、本格的な電子会議室システムを導入・運用すると、年間数百万円の費用がかかる場合があります。特に運用に関しては、どれだけの人員を割くか、外部の専門家などを活用するかなどによって、経費が異なります。
- ・社団法人三重県情報通信基盤整備協会が総務省地域 SNS を導入、カスタマイズしたケースをもとにした試算では、導入経費が約 71 万円、年間運用経費が約 120 万円でした（実践編 地域 SNS 1-3 参照）。

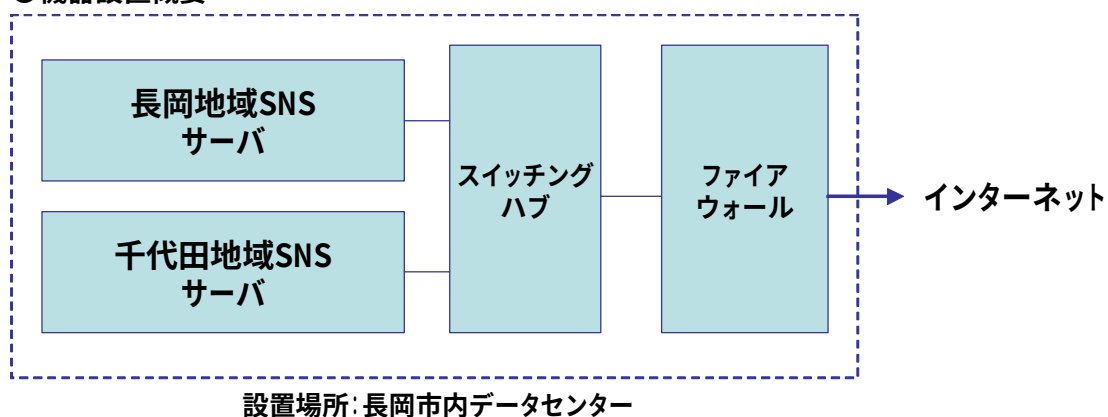
地域 SNS 導入・運用にかかる費用の例

事例		費目	金額	備考
三重県における電子会議室		導入経費	3,560 万円	開発、GIS 費用等を含む
		年間運用経費	520 万円/年	平成 17 年度
藤沢市における電子会議室		導入経費	350 万円	旧システムからの移行
		年間運用経費	約 800 万円/年	平成 17 年度。詳細は別表参照。
八代市における地域 SNS		導入経費	約 22 万円	担当者の人件費等は除く
		年間運用経費	ほとんどなし	担当者の人件費等は除く
(社) 川崎地方自治研究センターにおける地域 SNS		導入経費	約 7 万円	担当者の人件費等は除く
		年間運用経費	約 9 万円/年	担当者の人件費等は除く
総務省 地域 SNS	既存のサーバに導入	導入経費	28 万円～	独自改修する場合は別途
		年間運用経費	0 円/年～	職員が自分で運用
	新たにサーバを購入	導入経費	108 万円～	独自改修する場合は別途
		年間運用経費	106 万円/年～	保守運用を委託
	データセンターを利用	導入経費	55 万円～	使用するデータセンターや契約条件等により異なる
		年間運用経費	170 万円/年～	

注：上記はあくまでも一例であり、導入条件等により異なります。三重県及び藤沢市の場合、運用支援（世話人やシステム保守・運用など）を外部の専門家に委託している費用が含まれています。

実証実験における地域 SNS 導入の概要および経費

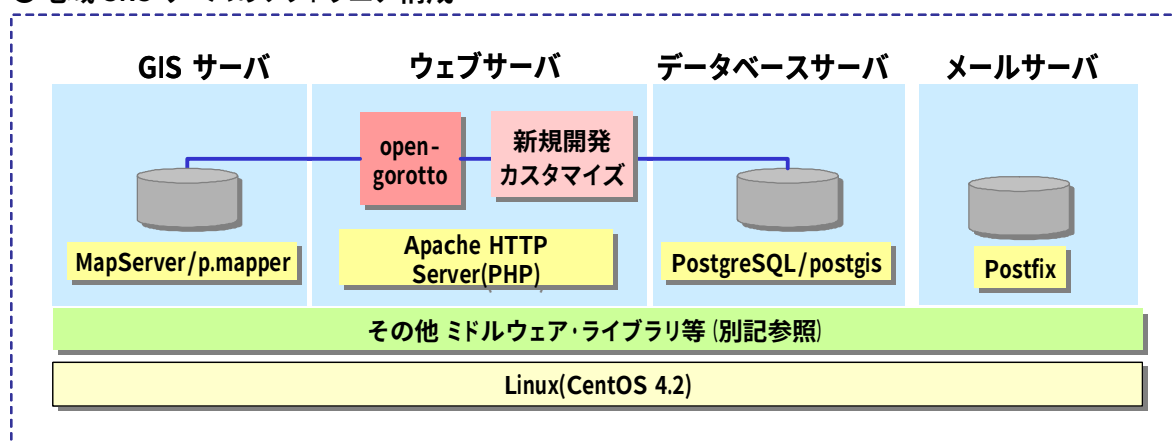
●機器設置概要



●ハードウェア構成および仕様

機器種別	機種名	仕様等
地域 SNS サーバ ・ウェブサーバ ・アプリケーションサーバ ・データベースサーバ	HP DL360	インテル Xeon 3.2Ghz メモリ 4Gbyte HDD 300Gbyte(RAID1)
ファイアーウォール	NetScreen-25	
スイッチングハブ	Cisco Catalyst 2950	

●地域 SNS サーバのソフトウェア構成



地域SNSサーバ

●地域 SNS サーバ利用ソフトウェア (OS および主要ミドルウェア)

ソフトウェア等		名称	バージョン
OS		Linux	
ミドルウェア	ウェブサーバ	apache	2.0.54
	メールサーバ	postfix	2.2.5
	スクリプト言語	PHP	4.4.0
	データベース	postgres	8.0.3
	GIS エンジン	mapserver	4.6.1
	地図表示スクリプト	pmapper	1.0.8

●その他のミドルウェア・ライブラリ等

名称	種別
libpng-devel	画像処理
libtiff-devel	画像処理
libjpeg-devel	画像処理
freetype2	文字 (フォント) 表示
gd	画像処理
proj	地図処理
gdal	地図処理
geos	地図処理
libxml2	外部BLOG連携
libiconv	文字エンコード
ImageMagick	画像処理

●利用者のパソコンのブラウザ (閲覧ソフト)

項目	ソフトウェアおよびバージョン
推奨	Internet Explorer 5.5 相当以上
動作確認	Internet Explorer 5.5/6.0(Win) FireFox 1.0/1.5(Win/Mac)

●長岡、千代田共同利用部分の経費

項目	内容	費用
サーバ設置環境	長岡市内のデータセンター費用 (両地域SNSで共用ラック使用) 2005年12月1日～2006年2月28日	509,400 円
ネットワーク機器	ファイアーウォール、スイッチングハブ (長岡、千代田で共同利用)	837,000 円
費用合計		1,346,400 円

●長岡、千代田それぞれに要した経費

項目	内容	費用
サーバ機器	サーバ1台	700,000 円
ソフトウェア	OS (Linux Centos)	0
	ミドルウェア	0
	Web Server (Apache)	0
	DBServer (PostgreSQL)	0
	MapServer (p.mapper)	0
	MailServer (Postfix)	0
環境構築諸費用	サーバ証明書 (民間の証明書) ドメイン取得 (jp ドメイン)	43,000 円
費用合計		743,000 円

三重県会 e デモ会議室 導入・運営経費詳細

- ・開発・導入経費：約 3560 万円 (e-デモ会議室、e-デモマップ、e-デモ・ジュニアの合計。)
- ・年間運用経費：約 520 万円 (平成 17 年度。e-デモ会議室、e-デモマップ、e-デモ・ジュニアの合計。)

三重県 e-デモ会議室の経費 (単位：円)

e-デモ本体にかかる経費 (平成13年度開発)		
e-デモ本体 開発経費	5,785,500	13年度
	26,145,000	15年度 (+マップ開発)
e-デモ会議室 運営経費	304,500	13年度 (試験運用)
	3,654,000	14年度 (本運用)
	3,654,200	15年度 (本運用)
	4,746,000	16年度 (+マップ)
	3,906,000	17年度 (+マップ)
e-デモ本体経費 計	48,195,200	

e-デモ・ジュニアにかかる経費 (平成14年度開発)		
e-デモ・ジュニア 開発経費	3,675,000	14年度
e-デモ・ジュニア 運用経費	142,800	14年度
	1,276,800	15年度
	1,318,800	16年度
	1,318,800	17年度
e-デモ・ジュニア経費 計	7,732,200	

システムにかかる経費 (e-デモ、ジュニア、+マップの合計)		
システム開発費合計	35,605,500	
システム運用費合計	20,321,900	
直接的経費計(a)	55,927,400	

出所：三重県資料

藤沢市市民電子会議室 導入・運営経費詳細

○市民電子会議室機器等管理運営業務委託 3,290,205 円

・委託先:財団法人 藤沢市産業振興財団

・業務内容:インターネット上に会議室を開設するためのサーバ等機器の管理運営業務、及び市民電子会議室を実施する上で必要なインターネット関連の支援業務を委託。

費用内訳

項目	金額	業務内容
サーバ等機器管理運用費	2,029,408 円	・サーバ本体の設置、保守 ・ウィルス検知サーバの設置、運用管理、ライセンス等
市民電子会議室実施支援費	695,400 円	・講習会実施支援、統計支援、広報活動支援等
一般管理費(15%)	408,721 円	
消費税	156,676 円	
合計	3,290,205 円	

○市民電子会議室運営支援業務委託 4,122,930 円

・委託先:VCOM 事務局 株式会社編集工学研究所

・業務内容:ネットワークコミュニティに関する経験と専門的な知識を活用して、市民電子会議室の運営を支援する業務を専門機関に委託。

費用内訳

項目	金額	業務内容
運営委員会支援	1,440,000 円	・世話人派遣(発言チェック。問題発言への対応。初心者用会議室開設運営支援。質問等への対応。オフ会への参加。会議室開設要求対応等) ・緊急用 ML の設置 ・運営委員会、事務局へのアドバイス ・運営委員会への出席。打ち合わせへの出席 ・市民電子会議室ニュースの作成
市役所エリア会議室運営支援	840,000 円	・進行役派遣(ホットメッセージ、会議室ノート等コンテンツの更新。発言チェック。問題発言への対処。オフ会への参加等)
運営協力者育成プログラム作成、支援	446,600 円	・講習会企画、実施 ・進行役育成会議室の開設、運営等
市民電子会議室専用ソフト運用支援	1,200,000 円	
消費税	196,330 円	
合計	4,122,930 円	

※ その他、運営委員への報償(謝礼)、交流会、講習会等の開催費用など。

出所:藤沢市資料

6 電子アンケートとは

電子アンケートとはどのようなものですか？

キーワード

- ・紙のアンケート調査にくらべてコストが安く、所要時間が短い
- ・繰り返しアンケートや地域 SNS との連動が可能
- ・公的個人認証サービスによる二重回答の防止

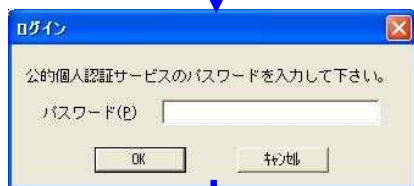
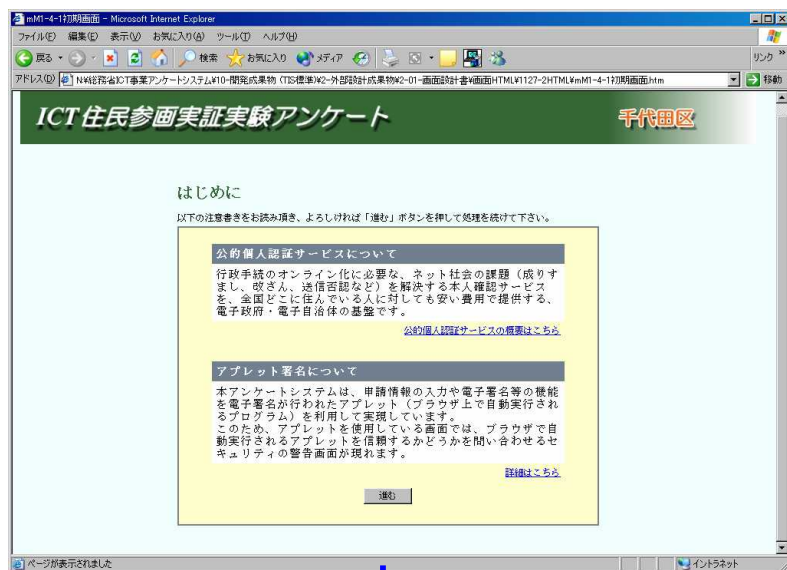
関連項目

- [実践編 電子アンケート] 3-1 電子アンケートシステムの活用方法
- [実践編 電子アンケート] 3-2 公的個人認証対応電子アンケートシステムのメリット
- [実践編 電子アンケート] 3-5 携帯電話を利用した電子アンケート

- ・電子アンケートは、従来の紙の調査票ではなく、パソコンや携帯電話からアンケートに回答する方式です。アンケート票の作成も、パソコンで行います。
- ・公的個人認証サービスを利用して厳格に本人確認することにより、同一人物による二重回答や送信途上の改ざんを防止することが可能です。
- ・アンケートに回答する側のメリットとしては、記入や調査票返送の手間が軽減されます。携帯電話用アンケートなら、どこからでも回答できます。
- ・アンケートを行う側のメリットとしては、紙・郵送のアンケートに比べて、印刷、郵送、データ入力などの手間やコスト、所要時間を大幅に削減できます。従って、より多くの人を対象に調査したり、調査頻度を高めたりすることが可能になります。
- ・最初に大きな範囲で質問を行い、回答結果を見て対象を絞り込んで再度アンケートを行うなど、紙のアンケートでは難しい繰り返しアンケートも可能です。また、地域 SNS のコミュニティの参加者を対象にアンケートを行い、その結果をもとに意見交換するなど、連動した活用方法が可能です。
- ・携帯電話を用いれば、例えばイベント来場者にその場でアンケートをとったり、災害時に、各避難場所が必要な救援物資情報を集めるといった使い方も可能になります。

電子アンケートの回答画面例 (パソコンから)

●公的個人認証サービスで本人確認する場合



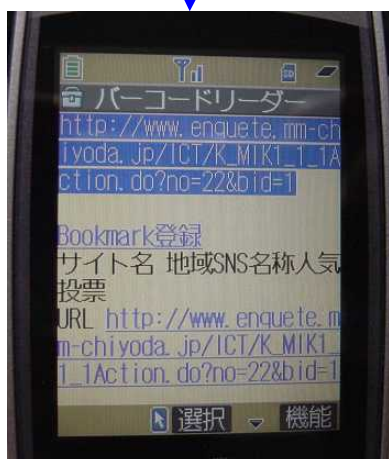
●しない場合

電子アンケートの回答画面例 (携帯電話から)

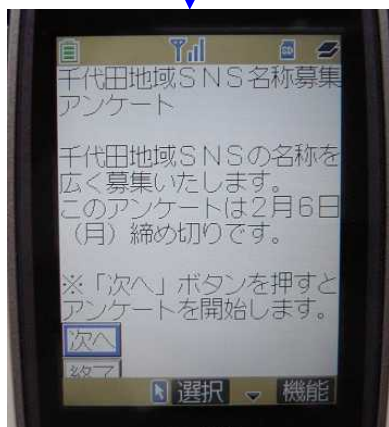
- ・電子アンケートは、携帯電話から回答していただくことも可能です。その際には、携帯電話から回答するための調査票を作成します。
- ・現時点では、携帯電話から公的個人認証サービスを用いて、電子アンケートに回答することはできませんが、別途、携帯電話からの公的個人認証サービスを利用する実証実験が実施されており、この成果などを活用して、今後利用可能になる見込みです。



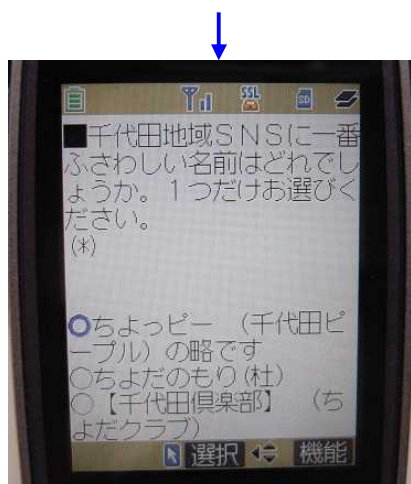
携帯電話で二次元バーコード (QR コード) を読み取ります。アドレスから直接アクセスすることもできます。



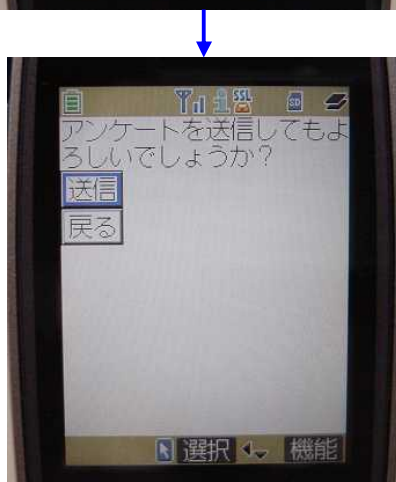
アンケートのアドレスが表示されるので、クリック (選択) します。



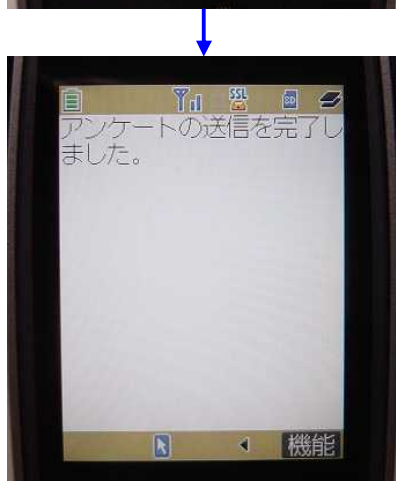
アンケートの説明画面が表示されます。



設問にしたがって、回答していきます。



最後に送信ボタンを押します。

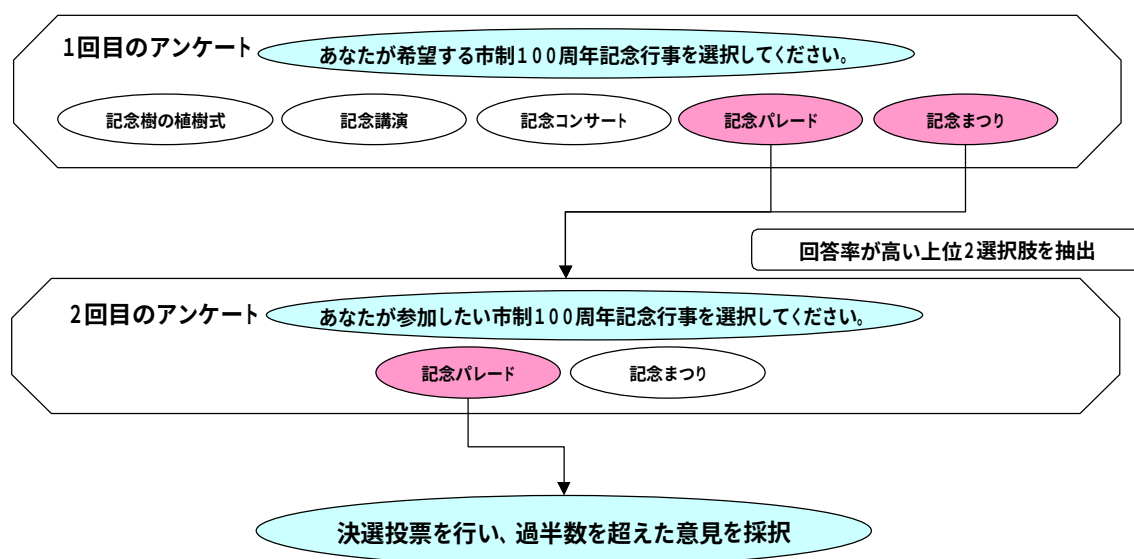


これで携帯からの電子アンケートの回答は完了です。

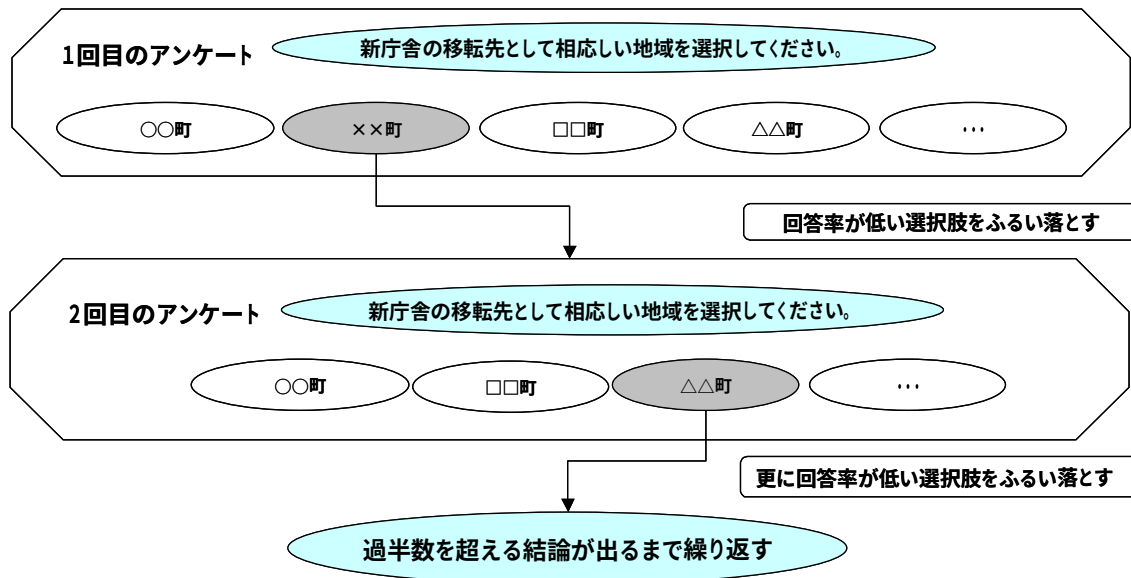
繰り返しアンケートの例

- ・電子アンケートは、紙のアンケートよりも、安いコストで早くアンケート調査を行うことができることから、何度も繰り返してアンケートを行うことができます。
- ・例えば、1回目の結果をもとに、選択肢を絞り込んで再度アンケートを行う（決選投票型、ふるい落とし型）ことや、1回目の結果をもとに、前提条件を変えて再度アンケートを行うことなどが可能です。

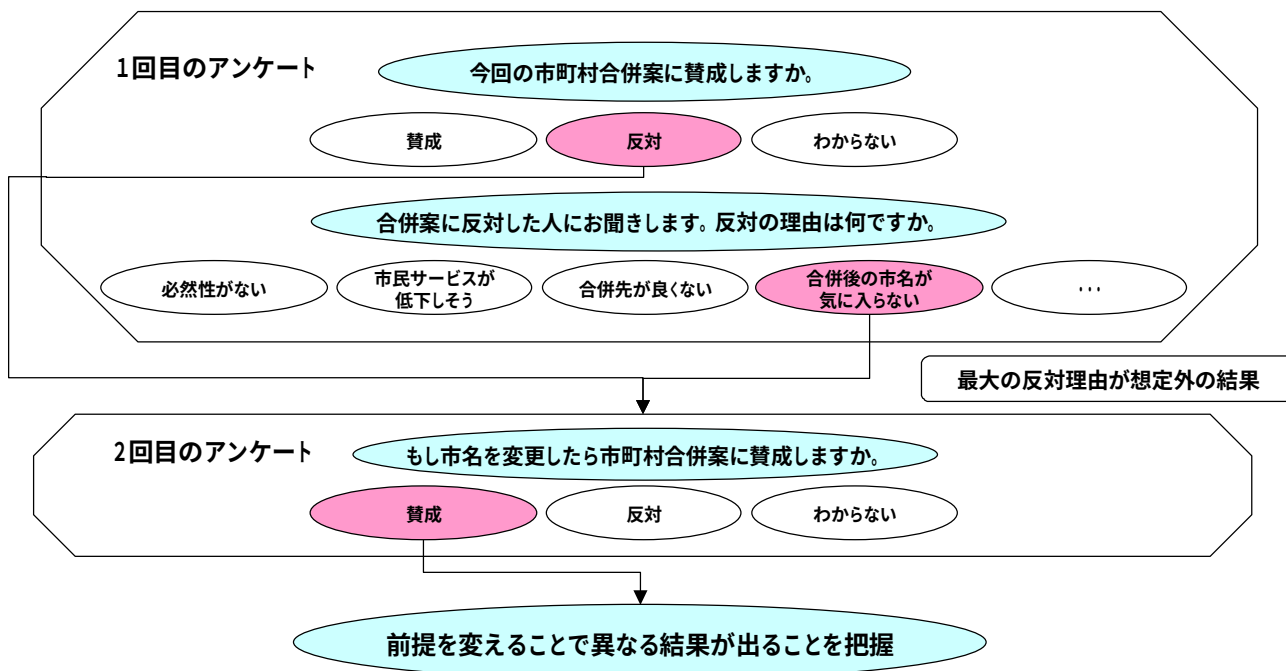
過半数に到達するまでの繰り返しアンケート例（決選投票型）



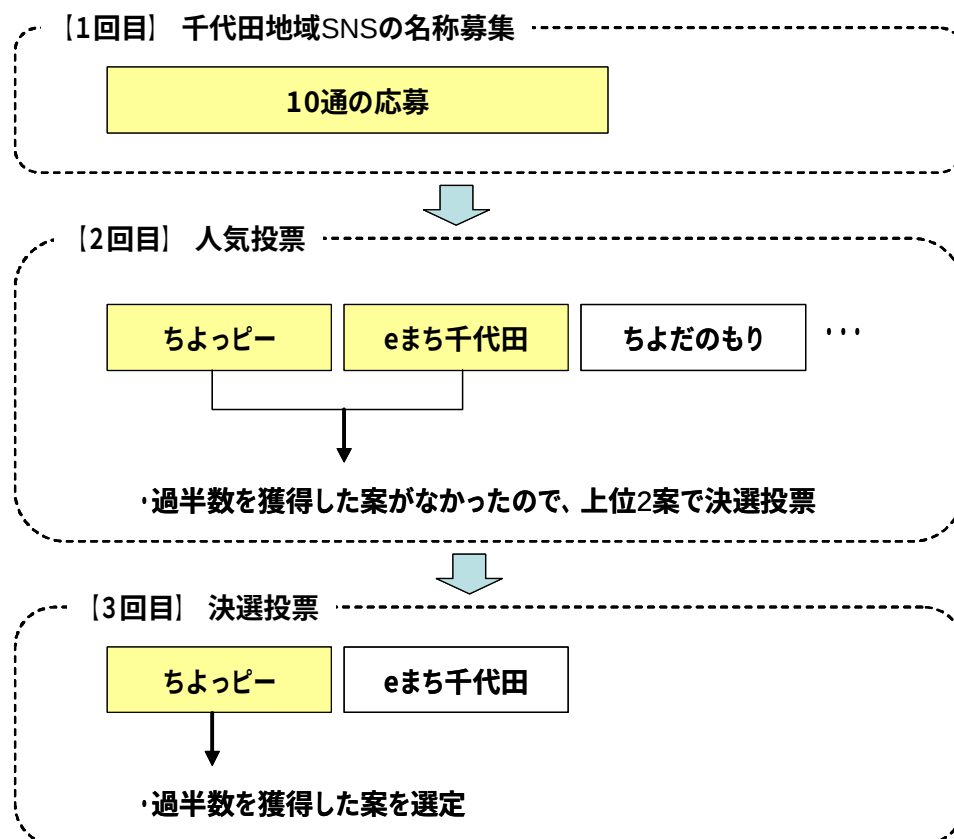
過半数に到達するまでの繰り返しアンケート例（ふるい落とし型）



前提条件を変えて質問を行う繰り返しアンケート例



実証実験における繰り返しアンケートの実施例 (千代田)



アンケート票の設計

- ・アンケート票の設計は、パソコンから手軽に行うことができます。作成したアンケート票を保存しておき、再利用することも可能です。

7 電子アンケートの費用

電子アンケートの費用はどのくらいかかりますか？

キーワード

・導入経費、運用経費
・従来の紙のアンケート調査との比較

関連項目

[実践編 電子アンケート] 1-3 システム導入方法のケース
[実践編 電子アンケート] 1-4 導入ケース別の必要経費
[導入検討編] 5 地域 SNS の費用

- ・地域 SNS 同様、導入する条件により費用は異なります。既存のサーバに標準版のソフトウェアを導入するのであれば、低コストでの導入・運用が可能です。
- ・また、紙・郵送で行うアンケート調査は、配布票数が多くなるほど、印刷費や郵送費などが高くなりますが、電子アンケートの場合、票数が多くなっても、それほどコストは変わりません。2,000 件配布するアンケート調査の場合、紙・郵送に比べて電子アンケートは 100 万円くらい安く行うことが可能です。
- ・仮にデータセンターを利用して、電子アンケートシステムを導入した場合でも、2,000 件配布規模のアンケートを年に 2 回以上行えば、紙・郵送でアンケートを行う場合に比べて、コストが安くなると考えることができます。
- ・加えて、調査票の設計から配布、回収、集計までのスピードも、電子アンケートの方が圧倒的に早くなります。これまで、予算面の制約で実施回数や配布数の規模が限られていたのが、電子アンケートを導入することにより、大規模で何度も行うことが可能になり、住民などのニーズをより詳細に把握することが可能になります。

紙・郵送と電子アンケートの比較 (1 回当り、例)

項目	1000 件配布	2000 件配布
紙・郵送 (A)	661,000 円	1,183,000 円
電子アンケート (B)	116,000 円	116,000 円
差 (A) - (B)	545,000 円 (82.5%減)	1,067,000 円 (90.2%減)

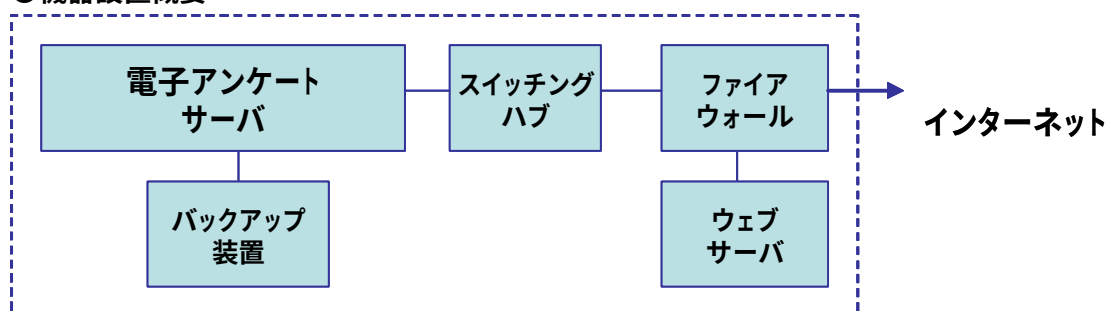
電子アンケートシステム導入・運用にかかる費用の例

事例		費目	金額	備考
電子アンケートシステム	既存のサーバに導入	導入経費	25 万円～	独自改修する場合は別途
		年間運用経費	15 万円/年～	職員が自分で運用
	新たにサーバを購入	導入経費	145 万円～	独自改修する場合は別途
		年間運用経費	167 万円/年～	保守運用を委託
	データセンターを利用	導入経費	45 万円～	使用するデータセンターや契約条件等により異なる
		年間運用経費	195 万円/年～	

注) 上記はあくまでも一例であり、導入条件等により異なります。

実証実験における電子アンケート導入の概要および経費

●機器設置概要



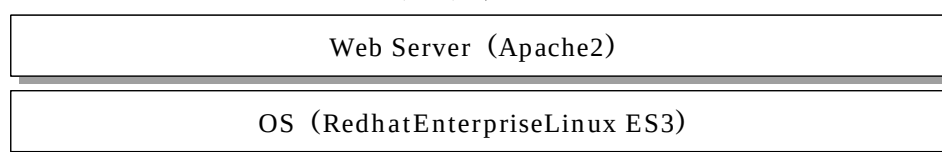
設置場所：長岡市東情報センター、千代田区内データセンター

●ハードウェア構成および仕様

機器種別	機種名	仕様等
電子アンケートサーバ ・アプリケーションサーバ ・データベースサーバ	HP DL380	インテル Xeon3.2Ghz メモリ 4Gbyte HDD 145.6Gbyte (RAID5)
ウェブサーバ	HP DL360	インテル Xeon3.6Ghz メモリ 2Gbyte HDD 36.4Gbyte (RAID1)
ファイアウォール	NetScreen-25	(長岡では既設機器を使用)
スイッチングハブ	Cisco Catalyst 2950	(長岡では既設機器を使用)
バックアップ装置 (DAT)	Ultrium 448i	

●地域 SNS サーバのソフトウェア構成

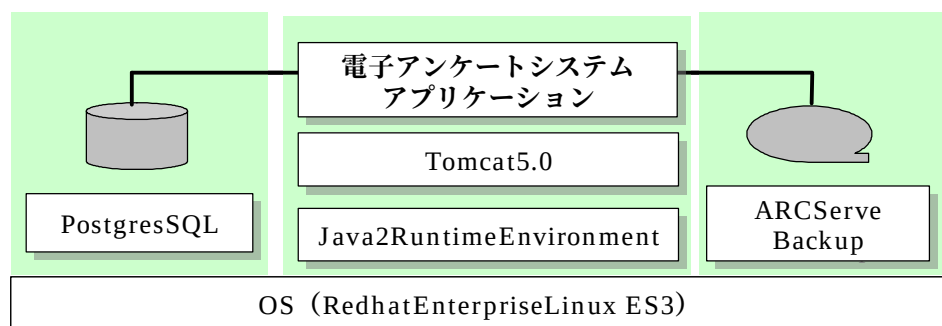
ウェブサーバ



データベースサーバ

アプリケーションサーバ

バックアップソフトウェア



●利用者のパソコン (公的個人認証サービス対応アンケートに回答するために必要なもの)

項目	内容
電子証明書の取得	市区町村窓口で公的個人認証サービスのための電子証明書を取得する必要がある (住民基本台帳カードなどに格納)。
利用者クライアントソフト	電子証明書を取得する際に配布される CD-ROM を用いて、利用者クライアントソフトのインストールおよび設定を行う必要がある。
カードリーダー・ライタ	電子証明書を発行した市区町村が定めるカードリーダー・ライタをパソコンに接続、設定する必要がある。

●長岡

項目	内容	費用
サーバ設置環境	長岡市東情報センター	0
ネットワーク機器	既存のネットワーク環境を使用	0
サーバ機器	ウェブサーバ 1 台	488,000 円
	アプリケーションサーバ兼データベースサーバ 1 台	880,000 円
	バックアップ装置 1 台	343,700 円
ソフトウェア	OS (Redhat Linux ES3) × 2 式	199,600 円
	バックアップソフトウェア (ARCserve Backup)	98,000 円
	Web Server (Apache2)	0
	AP Server (Tomcat5.0)	0
	DB Server (PostgreSQL)	0
	Java2RuntimeEnvironment	0
環境構築諸費用	サーバ証明書 (民間の証明書)	65,000 円
	アプレット証明書、ドメイン取得 (jp ドメイン)	
	サーバ証明書 (LGPKI)、ドメイン取得 (lg.jp ドメイン)	0
費用合計		2,074,300 円

●千代田

項目	内容	費用
サーバ設置環境	千代田区内データセンター インターネット回線費用、ISP 費用 など	1,160,000 円
ネットワーク機器	ファイアーウォール、スイッチングハブ	837,000 円
サーバ機器	ウェブサーバ	488,000 円
	アプリケーションサーバ兼データベースサーバ 1 台	880,000 円
	バックアップ装置 1 台	343,700 円
ソフトウェア	OS (Redhat Linux ES3) × 2 式	199,600 円
	バックアップソフトウェア (ARCserve Backup)	98,000 円
	Web Server (Apache2)	0
	AP Server (Tomcat5.0)	0
	DB Server (PostgreSQL)	0
	Java2RuntimeEnvironment	0
環境構築諸費用	サーバ証明書 (民間の証明書)	65,000 円
	アプレット証明書 ドメイン取得 (jp ドメイン)	
	サーバ証明書 (LGPKI)、ドメイン取得 (lg.jp ドメイン)	0
費用合計		4,071,300 円

8 高齢者などの参加

高齢者などパソコンが苦手な人はどうすればいいですか？

キーワード

- ・従来の住民参画手段との比較
- ・高齢者の利用促進策

関連項目

- 【導入検討編】 1 ICT を活用した住民参画の方法
- 【実践編 地域 SNS】 2-3 より多くの人に参加していただく方策

・ICT を活用する場合、年齢が高くなるほどインターネット利用率が下がるなどの、いわゆるデジタルデバインド問題が生じます。しかし、従来の住民参画手段の場合も、物理的、時間的制約などから参加できない、参加しにくい人がいました。

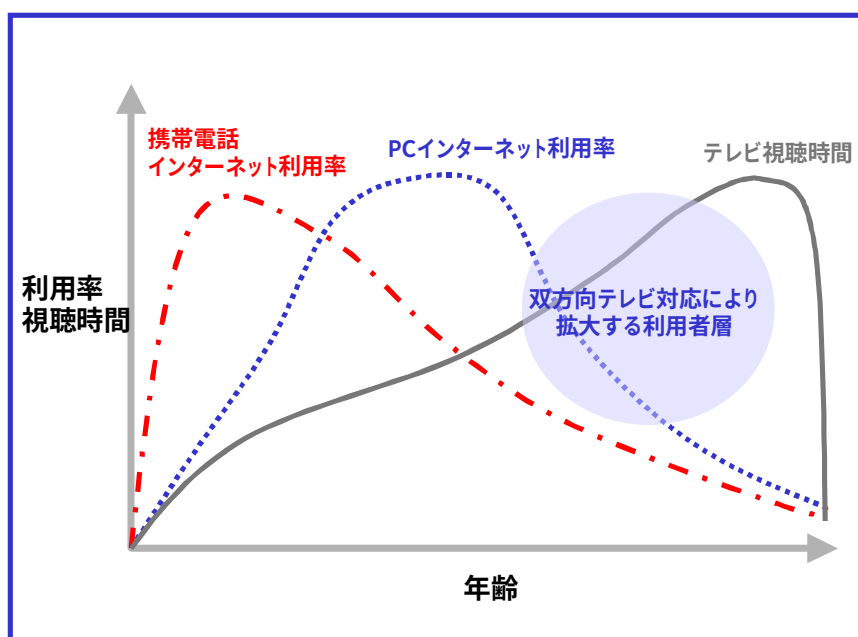
・高齢者などインターネットが苦手な人たち、利用できない人たちの活用を促進するには、

- 1) 研修やサポートなどを充実する
- 2) 公共施設などに端末を置いて、自宅に端末がない人でも利用できるようにする
- 3) 紙に印刷して閲覧できるようにする
- 4) 代理での入力、操作ができるようにする
- 5) 音声認識など既存の端末のバリアフリー化を進める
- 6) テレビ端末など高齢者が使いやすい機器へと利用可能範囲を拡大する

などの方法が考えられます。

・また、地域 SNS が高齢者などのインターネット利用のきっかけとなり、利用促進につながることも期待されます。

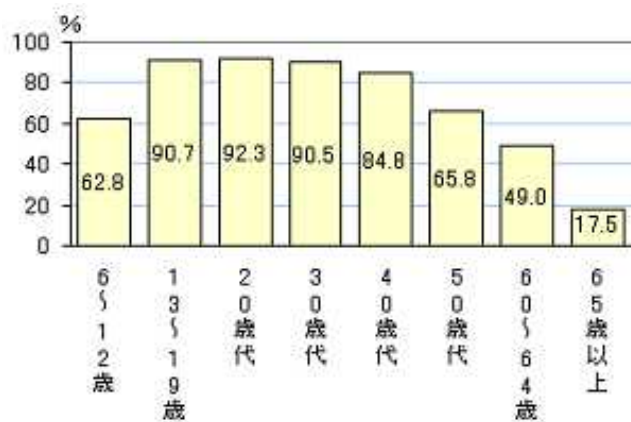
テレビ端末による高齢者への利用拡大



年齢別のテレビ、インターネットの利用状況



年齢別インターネット利用率 (2004年末)



資料:総務省「通信利用動向調査」

http://www.dosite.jp/do/j-state_net.html

高齢者の地域 SNS 活用について（みえ IT 市民会議の太田さんに聞く）

- ・高齢の方や、パソコン初心者の方々は目的や実感などがないと、なかなか使ってくれません。例えば既存の地域コミュニティやサークル活動などをベースに使っていただくことが大事だと思います。単なる操作説明だけではなく、どんな目的に使うのか、コミュニティを立てる場合どんなテーマにするのかといったことを、みんなで話し合いながら決めていく過程が重要。そして、利用者が自分たちで使い方を決めていく過程で、創意工夫が生まれ、関心や参加意識が高まります。
- ・また、一般的に SNS では日記の機能がよく活用されますが、高齢者が参加する地域 SNS では、むしろコミュニティ機能に着目したほうがいいでしょう。高齢者の方の多くが、地域 SNS の自己紹介登録でまず戸惑いがみられます。誰に対してどのように自己紹介すればいいのかがよくわからないという点。インターネットでの広がりや SNS での人のつながりをこれから実感していただくためには、「〇〇サークルに所属する△△さん」という肩書きからスタートしましょう、だから、みなさんで〇〇サークルのことを表現していきましょう、と説明すると、インターネットそのものに対する漠然とした不安も薄れていくようです。
- ・また、コメントを書く人、写真やビデオを撮る人、取材する人など、得意分野を分担して、みんなでひとつのコミュニティを作り上げていったほうが、参加しやすいし、運営面でも盛り上がります。最初はひとりきりではなかなか使いませんし、人の地域のつながりを小さいサークルからはじめましょう、と案内したほうが地域 SNS に愛着も持っていただくことができるかと思います（談）



たまき@倶楽部（三重県）の方々の地域 SNS 体験の様子

9 住民ニーズの把握

地域 SNS や電子アンケートを使って住民ニーズを把握するにはどうしたらいいですか？

キーワード

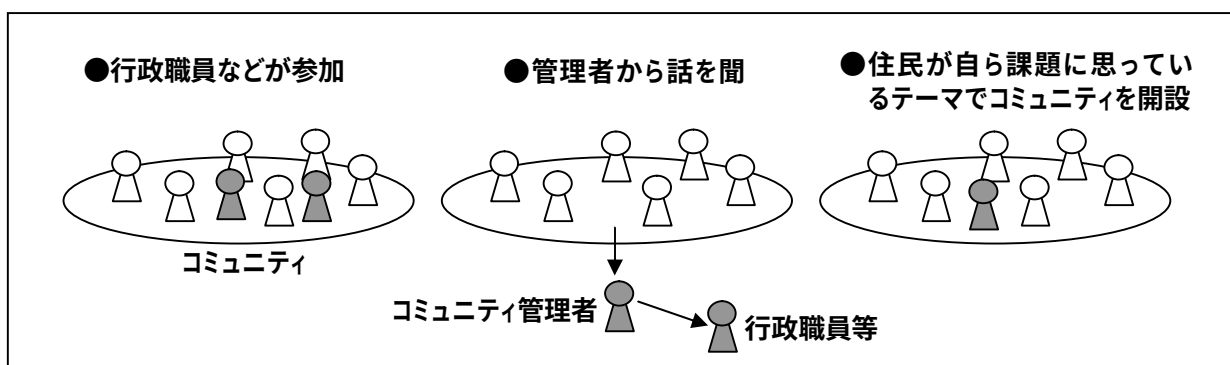
- ・行政職員などもコミュニティに参加する
- ・コミュニティ管理者から意見を聞く
- ・住民が自らコミュニティを立ち上げる

関連項目

- [実践編 地域 SNS] 2-3 より多くの人に参加していただく方策
- [実践編 地域 SNS] 2-5 行政職員の積極的な参加
- [実践編 電子アンケート] 3-1 電子アンケートシステムの活用方法

[地域 SNS]

- ・地域 SNS を用いて住民の様々なニーズを把握することが可能です。アンケート調査が特定のテーマや予め作成した設問に対する回答であるのに対し、地域 SNS では、日々の生活の中での意見の把握や、双方向でのやりとりが可能です。
- ・例えば、「子育て」「バリアフリー」などのコミュニティに、行政職員などが参加することにより、住民の関心や苦労していること、要望などを、より具体的に把握することができます。場合によっては改善策の検討や実施まで、そのコミュニティで実現できるかもしれません。
- ・コミュニティ管理者から、最近コミュニティで話題になっていることや、意見として出ている課題、要望などについて、話を聞く方法もあります。把握しておきたい住民ニーズに合致するコミュニティの管理者からは、定期的に話を聞いてもいいでしょう。
- ・公認コミュニティ（藤沢市の市民電子会議室では「市役所エリア」に相当）は、開設する際に運営主体の承認が必要ですが、一般コミュニティは、参加者が自由に開設可能です。自分の趣味や関心ごとなど、利用規約に反しない範囲で、どんなコミュニティでも開設できます。一般コミュニティの開設傾向などから、住民の関心のありかがわかります。また、住民自らがニーズや課題と感じているテーマについてコミュニティを開設し、そこで様々な意見を交わすことで、住民ニーズを顕在化することができます。行政施策に関係がありそうなテーマのコミュニティについては、公開のものは定期的に内容を閲覧し、ニーズを把握するのに役立てることができます。
- ・なお、行政（職員）側の役割として、議論をただウォッチするだけではなく、行政情報のタイムリーな提供等インタラクティブな体制が必要になります。情報源となる行政ホームページのコンテンツ充実はもとより、行政職員の積極的な参加と発言が効果的な住民ニーズの把握には必要不可欠なものであり、行政職員にもコミュニティの一員としての意識（同じ議論のテーブルにしているという感覚）を持つよう求められます。
- ・またその他、住民が公開の日記に記載している日々の出来事や雑感の中などにも、隠されたニーズが潜んでいる場合もあります。このように、地域 SNS は、住民の様々な思いを顕在化、可視化するツールとして、有効活用が可能です。



[電子アンケート]

・電子アンケートは、紙のアンケートに比べて、

- 1) 何度もできる
- 2) 手軽にできる
- 3) すぐに回収、集計できる
- 4) 繰り返しできる
- 5) 大量にできる
- 6) 地域 SNS のコミュニティと組み合わせて使うことができる

などの特徴があります。

・従来は、2年に一度、1,000人を対象に紙で行っていたアンケートを、半年に一度、10,000人を対象に行うことも可能になります。その分、最新かつより多くの意見を収集し、様々な施策の検討などに活用することができます。

・なお、電子アンケートを行う場合、「母集団」の違いに留意する必要があります。紙のアンケートは、基本的には住民の中から均等に意見を収集できますが、電子アンケートの回答は、パソコンや携帯電話を活用する人に限られます。分析の際には、この点に十分留意するとともに、数回に一度は紙のアンケートを同時に行って補完することも有効です。

10 施策への反映

どのようにして施策に反映させるのですか？

キーワード

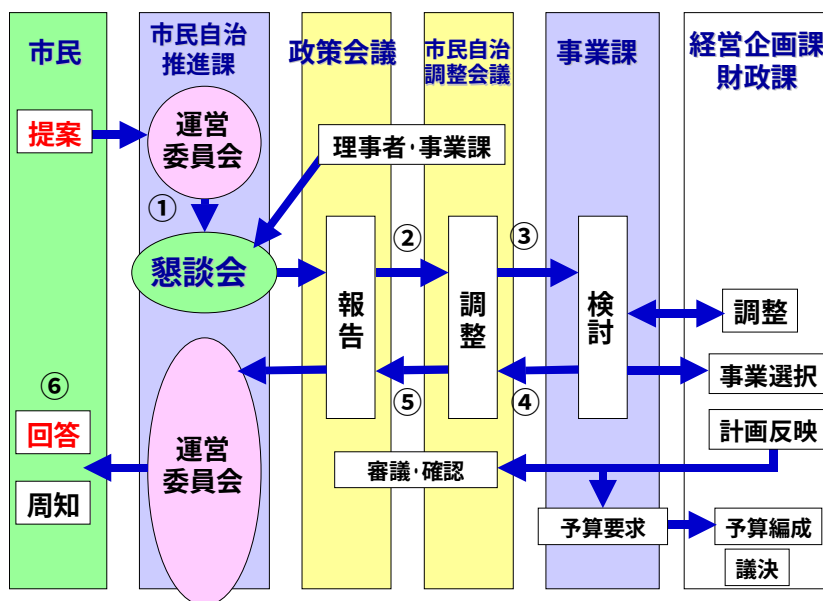
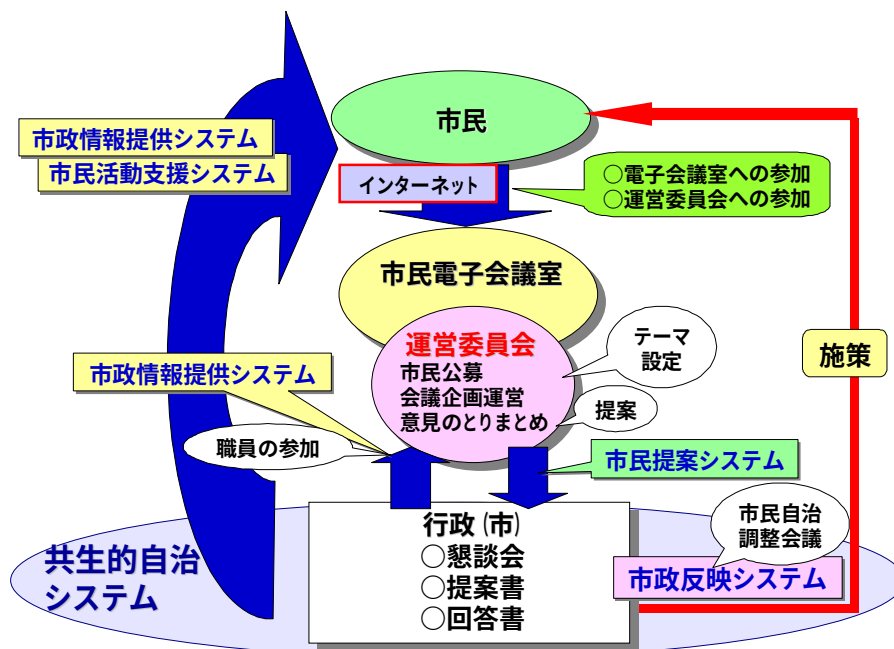
- ・意見反映の仕組み
- ・意見集約の方法

関連項目

【総論】 5 ICTを活用した「地域の課題解決力」の向上に向けて

- ・ICT はあくまでも意見収集のひとつの手段であり、住民参画ツールとして活用するには、行政施策などに反映させるための制度、仕組みが必要となります。
- ・藤沢市では、市民電子会議室の中に「市民エリア（市民が運用ルールに則って活用）」と「市役所エリア（市が会議室を主催するエリア）」を設けていますが、このうち市役所エリアの会議室を、市が進める「市民提案システム」制度の一つとして位置づけています。
- ・市役所エリアの会議室は、市政に関することを運営委員会（市民から公募）がテーマとして設定してスタートします。運営委員会が選任する進行役が会議の進行、取りまとめを担当し、成果は運営委員会を通じて「市政への提案」として提出されます。会議室には市職員も参加し、市民の意見交換に必要な情報を市役所が積極的に提供します。市役所エリアの会議室では、全ての参加者は実名で発言することとしており、ニックネームによる発言は認めていません。

藤沢市市民電子会議室における市政への反映の仕組み



図中の番号は、次頁に対応。

資料: 藤沢市

藤沢市における施策への反映の例

・1997年11月、「環境問題に関すること ごみ収集制度の改善」として「資源ごみ、不燃ごみの収集日の定曜日制への移行」について、運営委員会から提案書が提出されました。以下は、その際の庁内手続きを示したものです。（前頁の図中の番号に対応しています。）

- ①他の提案項目と一緒に、市民自治推進課主催の市長・助役・環境部長出席の懇談会上で運営委員長が提案書を手渡し、ここまでの議論の経過を含めて懇談した。
- ②その後、理事者は政策会議で提案を受けたことを報告し、市民自治推進課主催の市民自治調整会議（各部の調整課長、財政課長、職員課長、企画課長が出席）で諮り、各部間の調整を行う。
- ③環境部の調整課（環境政策課）が持ち帰り、担当課（環境事業センター）に回答検討を指示。
- ④その結果を回答書として市民自治推進課へ提出。市民自治推進課は、再度、市民自治調整会議に諮る。
- ⑤特に問題がなければ、市民自治部長が政策会議に報告し、運営委員会へ回答を渡す。

⑥当時の回答結果（実施予定だが課題はある）

【現在】

- ・資源ごみ：市内を12のブロックに分け、月2回業者に委託して収集。
- ・不燃ごみ：市内を12のブロックに分け、月2回業者に委託して収集。収集日の周知は、3月、6月、9月、12月の10日発行の広報に次回3ヶ月分を掲載。

【今後】

- ・収集日を定曜日化することにより、分別収集の一層の徹底が図れると考えているが、定曜日化するためには、可燃、不燃、資源ごみの収集日の調整、収集ブロックの見直し、祝祭日の取り扱い等の課題がある。
- ・また、「容器包装リサイクル法」による、平成12年度からの収集品目の増加に伴う、収集体制の見直しも検討課題。定曜日収集については、すべての収集体制の見直しの中で定曜日化に向け検討中。

現在の状況（解決）

- ・現在、市内を2ブロックに分け、可燃ごみは収集。資源物、不燃ごみ、廃プラ等は定曜日収集となっている。

11 運営体制

どのような体制が必要ですか？

キーワード

・庁内体制
・住民参加による運営体制

関連項目

[実践編 地域 SNS] 2-1 運営体制
[実践編 電子アンケート] 2-1 システムの管理、運用体制
[実践編 電子アンケート] 2-2 電子アンケートシステム活用のための体制

・地域 SNS 及び電子アンケートシステムを活用する場合の役割としては、以下のようなものがあげられます。

- 1) サーバー等の設置、管理、運用
- 2) 地域 SNS システムの管理、運用
- 3) 地域 SNS の活用
- 4) 電子アンケートシステム導入に伴い必要となる手続（公的個人認証関連など）
- 5) 電子アンケートシステムの管理、運用
- 6) 電子アンケートシステムの活用

・今回の実証実験では、長岡市、千代田区それぞれにおいて、次表のような役割分担で行われました。

・また、藤沢市の市民電子会議室の場合、市民からの公募で運営委員を選任し、運営委員会が市役所エリアの会議室のテーマ設定や、進行役の選任などを行っています。

・できるだけ多くの関連部署を巻き込み、庁内横断的な体制を構築して運営することが望まれます。

実証実験における地域 SNS の運営体制

項目	千代田	長岡
地域 SNS の運用主体	(財) まちみらい千代田	NPO 法人 ながおか生活情報交流 ねっと
システムの保守・運用	NTT データコミュニティプロデュース	NTT データコミュニティプロデュース
サーバーの設置場所 (データセンター)	NS・コンピュータサービス (長岡市)	NS・コンピュータサービス (長岡市)
行政内の主な参加部署	経営政策部広報広聴課、政策経営 部業務改革 IT 推進課、政策経営部 企画総務課、区民生活部、まちづ くり推進部など	企画部企画課、企画部情報政策課 など
災害モードへの切り替え	総合災害対策室防災課	市民生活部危機管理防災課

電子アンケートシステムに関わる主な役割と実証実験での対応

主な役割	概要	実証実験での対応
モニター募集 主体	・モニターを募集し、個人情報を取得します。 利用目的、提供範囲などを明記の上、本人 の同意のもとに集めます。NPO などの協力を 得る場合もあります。	【特定モニター (公的個人認証サー ビス利用)】 千代田区、長岡市 【一般モニター】 まちみらい千代田、 ながおか生活情報交流ネット
個人情報管理 主体	・取得した個人情報を管理します。必要な手 続きの上、外部に委託する場合があります。	各モニター募集主体
システム管理 主体	・電子アンケートシステムの管理を行います。 外部に委託する場合があります。	松下電器
アンケート実施 主体	・電子アンケート調査の企画、帳票設計、回 答依頼、督促、集計などを行います。外部 に委託する場合があります。 ・システム管理主体 (主として自治体) が承認 すれば、外郭団体や NPO などの団体がア ンケート実施主体になることもできます。	【公的個人認証サービス利用アンケ ート】 千代田区、長岡市 【その他のアンケート】 千代田区、 長岡市、まちみらい千代田、なが おか生活情報交流ネット、その他
公的個人認証 サービス実施 主体	・都道府県の認証局に電子証明書の有効性 を確認し、回答者に回答画面へのログイン を認めます。自治体など法律で定められた 団体のみ可能です。	千代田区、長岡市

藤沢市市民電子会議室の運営体制の概要 (詳細は次頁参照)

役割	役割	備考
運営委員会	・電子会議室全体の企画、運営 ・市役所エリア会議室の開設、廃止、テーマの選定 ・市長に対する提言の取りまとめ ・ルールの制定、改廃 ・ルール違反者への対応など	・公募し市長が選出、委嘱 ・原則、15 人以内 ・任期 2 年 (再任可) ・市内に居住、通勤、または通学し、かつインターネットを利用してホームページの閲覧および電子メールの送受信ができる者 ・通信費相当の報酬
世話人	・ルールチェック ・参加者のサポート ・進行役のサポート ・運営委員会の運営支援	・現在、2 名 (外部専門家に委託)
進行役	・会議室の運営、進行 ・参加登録者の管理 ・発言の管理 ・発言のまとめ	・運営委員会が選任
市民自治推進課	・事務局機能 ・市長への提言の提出、回答	

資料：藤沢市市民電子会議室実施要領などをもとに作成

藤沢市市民電子会議室の運営体制 (詳細)

名称	役割
運営委員	[選定方法] ・公募 (市民自治推進課が選考委員会として公募市民から選出。市長から委嘱状) ・申込書提出時に面談。年代、性別のバランスの他、地域活動の有無、人柄も重視。 [任期] 2年任期 (再任可能) [人数] 15人以内 (現在の第5期運営委員は12人。新任7人、再任5人) [謝礼] 運営委員長1人及び副委員長2人は年額5万円。その他の委員は年額3万円。(通信費実費相当の考え) [役割] 1) 市民電子会議室の運営 (会議室上で公開会議室の開催。オフ会の開催) ・ルール of 制定改廃、市役所エリア会議室のテーマ設定、進行役指名、とりまとめ等 ・運営上の諸課題の検討 (活性化、NPO との連携等) ・PR イベントの企画 (市民まつり、交流会、市民エリア開設者懇談会等) 2) 市政への提案 ・市役所エリア会議室について話し合いの結果、まとまったことがあれば市に提案書を提出することができる
進行役	[体制] ・市役所エリア: 運営委員会が指名。運営委員が務めるケースが多い。編集工学研究所からの派遣もあり。運営委員や研究所派遣以外の場合は、謝礼有り (5千円/月) ・市民エリア: 市民等の会議室開設者が務める。開設者が指名する場合もある。 [役割] 各会議室の司会進行、運営管理。 [任期、人数] ・特に制限なし。 ・ただし、一定期間発言がない会議室については、ルールにより閉鎖の対象となる。
藤沢市産業振興財団	・市と「市民電子会議室用機器等管理運営業務委託」を締結し、機器の管理運用等を実施している。 ・1年毎の契約
VCOM (※)	・市と「市民電子会議室運営業務委託」を締結し、運営委員会支援 (世話人派遣等)、市役所エリア会議室運営支援、運営協力者育成支援、及び市民電子会議室専用ソフト運用支援を実施している。 ・1年毎の契約
慶応義塾大学湘南藤沢研究協力機構 (SFC コンソーシアム)	・地域情報化等の動向について最先端の研究実績のある SFC コンソーシアムと「地域情報化課題解決業務委託」を締結し、SFC 金子教授による市民電子会議室へのアドバイスを実施している。 ・1年毎の契約
市民自治部 市民自治推進課	庁内担当部署 (提案の窓口) 役割については、次頁の表参照。

※VCOM: コミュニティ・ソリューションを目指すネットワーク・コミュニティについての実証研究プロジェクト。1995年5月に開始し、慶応大学金子郁容研究室が中心となって、参加企業や団体の支援を受けて運営されている。
<http://www.vcom.or.jp/about/index.html>

藤沢市 市民自治部 市民自治推進課の役割

〔市民自治部〕

- 1 市民自治の推進に関すること。
- 2 市民活動の支援に関すること。
- 3 広報及び広聴に関すること。
- 4 市民相談に関すること。
- 5 消費生活に関すること。
- 6 情報公開及び個人情報保護に関すること。
- 7 戸籍及び住民記録に関すること。
- 8 文化施設の財産に関すること。

〔市民自治部市民自治推進課〕

(2000 年 4 月組織改正。市民提案課、市民活動課の統廃合により新課。)

(2003 年 4 月一部改正)

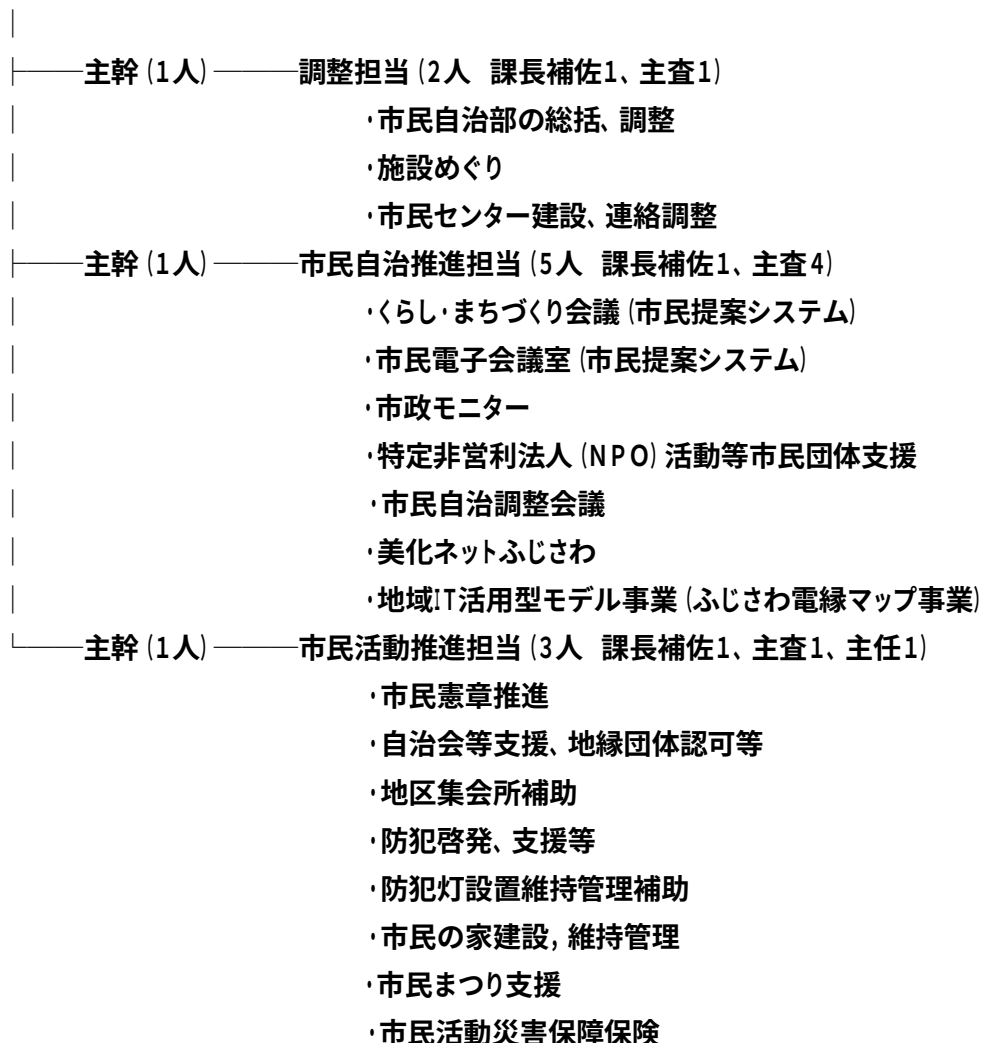
- (1) くらし・まちづくり会議、市民電子会議室及び市政モニターに関すること。
- (2) 市民センターの建設及び市民センターとの連絡調整
- (3) 市民憲章の推進
- (4) 自治会等の支援の総括並びに地縁による団体の認可及び認可地縁団体の印鑑登録
- (5) 地区集会所の建設等の補助
- (6) 防犯意識の啓発及び防犯団体の支援並びに関係機関との連絡調整
- (7) 防犯灯の設置及び維持管理に係る補助
- (8) 市民の家の建設及び施設の維持管理の総括
- (9) 市民まつりの支援
- (10) 市民活動に対する支援
- (11) 市民活動推進センターの施設の維持管理の総括
- (12) 文化振興基金に関すること。
- (13) 藤沢市民会館サービス・センター株式会社の運営指導及び連絡調整
- (14) 市民会館及び湘南台文化センターの施設に関すること。
- (15) 指定管理者に対する運営指導

藤沢市における市民電子会議室関連の庁内体制・役割分担

部	課	役割
企画部	IT 推進課	技術的支援。県、国等との連携窓口。
市民自治部	広報課	広報全般。広報紙、FM、CATV 等。
	情報管理課	情報公開。ウェブ管理。
	市民相談課	広聴全般。
	市民自治推進課	共生的自治推進。市民提案システム施策の実施、充実。

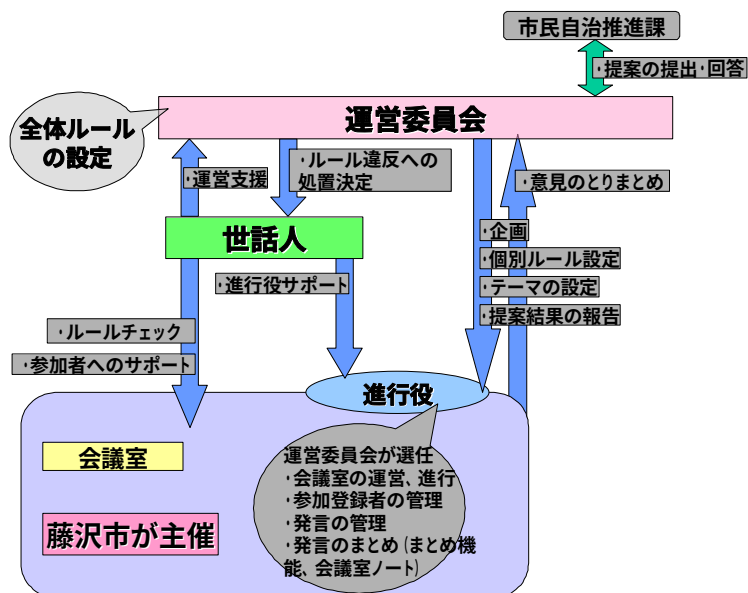
市民自治推進課の執行体制

参事(1人) ※課長兼務

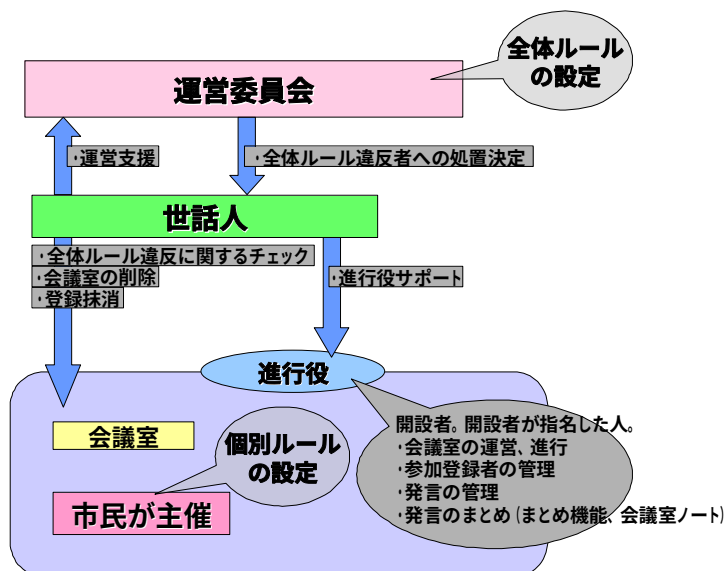


藤沢市市民電子会議室における役割分担

●市役所エリア (市が主催)



●市民エリア (市民が主催)



資料: 藤沢市

藤沢市市民電子会議室実施要領

(目的)

第1条 市民同士及び市民と行政が協働してまちづくりを進めるための基盤づくりとして、市民、企業、大学並びに行政が相互に情報交換及び意見交換等を行い、この市における市民参加と新しいコミュニティづくりを推進することを目的として、インターネットを活用した藤沢市市民電子会議室(以下「電子会議室」という。)を実施する。

(個人情報)

第2条 電子会議室上の情報については、「藤沢市個人情報の保護に関する条例」(平成15年9月19日条例第7号)の規定を適用する。ただし、電子会議室に参加登録した者が提供し、電子会議室に開示された情報は、個人情報であっても公開することに同意したものとする。

(会議室の種類)

第3条 電子会議室は、市政に関する事項をテーマとする市役所エリア会議室及び新しいコミュニティづくりを目的とする市民エリア会議室により構成する。

(市役所エリア会議室)

第4条 市役所エリア会議室は、第7条に規定する運営委員会が開設及び廃止等の決定をするものとし、テーマは、次に掲げる事項とする。

- (1) 市民等から提起された市政に関する事項
- (2) 市が提起した事項

(市民エリア会議室)

第5条 市民エリア会議室は、この市の区域内に居住、通勤、または通学している者が第1条の目的を達成するため自由に開設することができるものとする。

(提言)

第6条 運営委員会は、市役所エリア会議室で議論された事項について、必要があると認めるときは、市長に対して当該事項に係る提言をすることができる。

(運営委員会)

第7条 電子会議室の企画、運営等を行うため、電子会議室に運営委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組織)

第8条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 前項の規定にかかわらず、市長は、必要があると認めるときは、同項に定める人数を超えた人数で委員会を組織することができる。

(所掌事務)

第9条 委員会は、次に掲げる事項を処理する。

- (1) 電子会議室全体の企画、運営に関すること。
- (2) 第4条に定めるテーマの選定に関すること。
- (3) 第6条に定める提言に関すること。
- (4) 電子会議室の円滑な運営を行うために必要なルールの制定、改廃に関すること。
- (5) ルール違反者への対応に関すること。
- (6) その他、委員会が必要があると認める事項。

(委員)

第10条 委員は、公募に応募した者のうちから、市長が選出し、委嘱する。

2 委員の任期は、2年とする。

3 委員は、再任されることができる。

(資格)

第11条 委員になることができる者は、この市の区域内に居住、通勤、または通学し、かつインターネットを利用してホームページの閲覧および電子メールの送受信ができる者とする。

(応募等)

第12条 第10条に定める委員に応募しようとする者は、別に定める必要事項を市長に提出しなければならない。

(世話人)

第13条 運営委員会を補佐し、第9条第5号の事項を直接処理するため、世話人を置く。

(進行役)

第14条 市役所エリア会議室の円滑な運営を図るため、各市役所エリア会議室に運営委員会が選定した進行役を置く。

(事務局)

第15条 電子会議室の事務を処理するため、市民自治推進課を事務局に充てる。

(委任)

第16条 この要領に定めるもののほか、電子会議室に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

1 この要領は、平成16年1月26日から施行する。

附 則

1 この要領は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1 この要領は、平成13年4月1日から施行する。

2 市民電子会議室実験実施要領（平成9年7月1日）は、廃止する。

※2006年3月改正予定

資料：藤沢市 (<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/denshi/page100039.shtml>)

実証実験における主な役割と担当部署

主な役割		長岡市の場合	千代田区の場合
共通	データセンターへのサーバーなどの設置、管理・運用	情報政策課	企画総務課
	サーバー管理受託	データセンター（民間）	データセンター（民間）
地域 SNS	地域 SNS システムの管理・運用	ながおか生活情報交流ネット	（財）まちみらい千代田
	モニター募集	ながおか生活情報交流ネット	（財）まちみらい千代田
	公認コミュニティの開設許可	情報政策課	企画総務課
	公認コミュニティの開設・運用	長岡市各部署など	千代田区各部署など
	一般コミュニティの開設・運用	地域 SNS 参加者	地域 SNS 参加者
	行政からのお知らせ	情報政策課など	企画総務課など
	管理者からのお知らせ	ながおか生活情報交流ネット	（財）まちみらい千代田
	地域 SNS の災害モードへの切り替え	市民生活部危機管理防災課	総合災害対策室防災課
	災害時の情報発信	市民生活部危機管理防災課など まちかどレポーターなど	総合災害対策室防災課など まちかどレポーターなど
電子アンケート	公的個人認証利用手続（対 LASCOR）	情報政策課	企画総務課
	個人情報に関する審議会手続	情報政策課	広報広聴課
	電子アンケートシステムの管理・運用	情報政策課	企画総務課
	モニター募集	情報政策課	企画総務課
	電子アンケートの実施	企画課 ・公的個人認証繰返しアンケート ・携帯電話アンケート 情報政策課 ・地域情報化に関するアンケート ・生涯学習に関するアンケート	広報広聴課 ・アンケート内容の承認 企画総務課 ・アンケートシステムへの入力等

12 議会との関係

議会との関係で留意すべき点は何ですか？

キーワード

・情報公開のタイミング
・条例制定

関連項目

【総論】 5 ICTを活用した「地域の課題解決力」の向上に向けて

- ・住民による直接選挙で選ばれた議員によって構成される地方議会との関係にも留意する必要があります。
- ・従来、直接民主主義は、住民の意向把握や施策への反映、合意形成などに多くの手間とコストを要するという一面がありました。わが国では、これまで間接民主主義が採用されており、住民の意向把握や施策への反映、合意形成については地方議会や審議会などを通じて行われ、広域的、専門的見地からの問題解決が図られてきました。
- ・一方、地方分権の推進により、住民の意向把握や施策への反映を直接的に行うことが求められるようになってきました。また、ICT の活用により、より少ない手間やコストで、住民が直接意見を述べたり、住民意向の把握や意見交換を行うことが可能になってきました。これらの変化を背景として、間接民主主義中心の現状に対して、どこまで直接的に住民の意向を反映していくかという課題について検討をする必要があります。
- ・課題の解決方策として、議論するテーマによってすみ分けを行う方法が考えられます。例えば、近隣の公園の利用規則を決めるようなテーマの場合には、その公園を利用する人、近隣住民、管理する行政担当者などが参加して、当事者同士でルールを作成することが考えられます。このように、課題の所在が比較的小さな地域に閉じており、利害関係者もある程度限定される場面については、当事者である住民が直接参画して議論した結果、方針を決定することになじみやすいです。
- ・一方、ゴミ処分場の建設など、広域的な課題であり利害関係者も不特定多数に及び当該地域への補償の問題など当事者の利害関係の調整が複雑になる場合や、条例制定など専門的な知識が要求される場合については、住民の意見を十分踏まえつつも、地方議会におけるしっかりとした議論が求められます。
- ・また、地方議会の議員に地域コミュニティの問題解決のリーダー的役割を担っていただき、住民参画の過程に直接参画していただくという方法もあります。
- ・例えば、スウェーデンのストックホルム市シスタ小市議会地区では、e デモクラシーのサイトを開設し、議会関連情報（議事録など）の公開や、住民からの意見の提案、議員と住民間の意見交換などを実現しました。スウェーデンでは住民が意思決定できる領域と、政治家に意思決定を任せるべき領域が法律で明確に区別されていますが、それを踏まえながらも、あらゆる場面で市民の意思が尊重されるような努力がなされてきました。そしてこの努力は、住民の声を政治

家に伝えるルート作りへとつながりました。市民の声をすばやく、きちんと聞き入れる政治家は支持され、そうでない政治家は次第に疎まれていく、この循環が代議制を生き活きとしたものにしていくと考え方にたっています。市民が積極的に意見を述べる行動が先にあり、それに対して政治家や行政側が積極的に対応していくという手順です。ここでは、e デモクラシーは、間接民主主義の代替案ではなく、むしろ代議制を補完、活性化させるものと考えられています。

(※参考文献:「欧州発 e デモクラシーの潮流」 NTT データ コンセンサスコミュニティ)

<http://www.nttdata.co.jp/itinfo/publication/pdf/vol09-01.pdf>

・韓国ソウル特別区江南(かんなん)区では、高品質の行政サービス提供、住民参加活性化、行政の効率性の極大化、行政の透明性引き上げを目的として、電子政府を推進しています。この中で、江南ポータルサイトを利用した住民意見の直接収集や、電子投票、電子アンケート、電子会議室の運営などが行われており、住民の提案の中から採択されたものは政策に反映されるほか、予算編成の際の事業の優先順位決定にも活用されます。江南区においても予算編成に係る最終的な決定権は地方議会が持っていますが、このように住民によって直接的に優先順位付けされた結果を尊重する形で、地方議会においても決定が下される傾向にあるようです。

(※参考文献:「住民満足志向の江南区電子政府」 大韓民国ソウル特別区江南区)

・このように、地域 SNS などの ICT を活用した新しい住民参画手段は、迅速な情報発信や住民参加による施策検討など、様々な可能性を秘めていますが、一方、既存の制度との間で軋轢を生む場合もありますので十分な事前の検討が必要となります。以下、藤沢市、大和市の事例を紹介します。

・藤沢市市民電子会議室では、市内の鵠沼ガーデンプール閉鎖にともなう跡地利用問題が議論されたことがあります(2000 年 6 月～)。市の担当部署からの「跡地利用は今のところ白紙」の発言を受け、様々な提案、議論がなされ、2000 年 11 月には情報開示や市民の意見を取り入れることなどを盛り込んだ提言書が作成され、市に提出されました。

・しかしその直後、担当部署から電子会議室に跡地利用計画は既に決まっている旨の発言があり、会議室は紛糾することになります。会議室参加者の間には行政への不信感と失望が広がりました。

・後日、市から議会に諮る前に電子会議室に情報公開できなかった旨の説明がなされます。議会での決議前の情報を電子会議室に情報公開できない、決議後に議論しても内容が変わるわけではない、このようなジレンマを電子会議室は抱えることになります。

(※参考文献:「e-デモクラシーへの挑戦 藤沢市市民電子会議室の歩み」 金子郁容・藤沢市市民電子会議室運営委員 著)

・大和市(神奈川県)の事例は、電子会議室に直接関係するものではありませんが、住民参画に

よる政策立案と議会との関係という点で注目されます。

- ・2002 年 4 月、「大和市自治基本条例をつくる会」が中心となり、市民からの意見や市民相互の議論（63回の意見交換会などと119回の同会内部の会合）を経て、「大和市自治基本条例素案」が完成、2004 年 5 月に市長に提出されました。
- ・その後、市議会で素案の修正が行われたのですが、素案作成者たちにとっては、修正にあたり必ずしも十分な議論がなされたとは思えず、不本意ともいえる修正案となりました。
- ・条例制定は議会の役割であり、住民が作成した素案がそのまま条例となるのなら、議会は不要といわれかねませんが、一方、住民が相当の時間をかけて議論して作成した素案に対し、議会において限られた時間でさらによくするための修正案の作成が本当に可能かといった問題もあります。修正案の作成に対し、素案を作成した住民への説明責任の有無についても、必ずしも明確ではありません。このように、住民参加による政策立案を推進する際、住民参加の方法と議会の関係は、まだまだ今後検討していかなければならない課題のひとつです。

（※参考文献：「ドキュメント・市民がつくったまちの憲法 大和市自治基本条例ができるまで」 牛山久仁彦 監修、大和市企画部 編著、大和市自治基本条例をつくる会 編集協力）

参考1 実証実験地域の概要

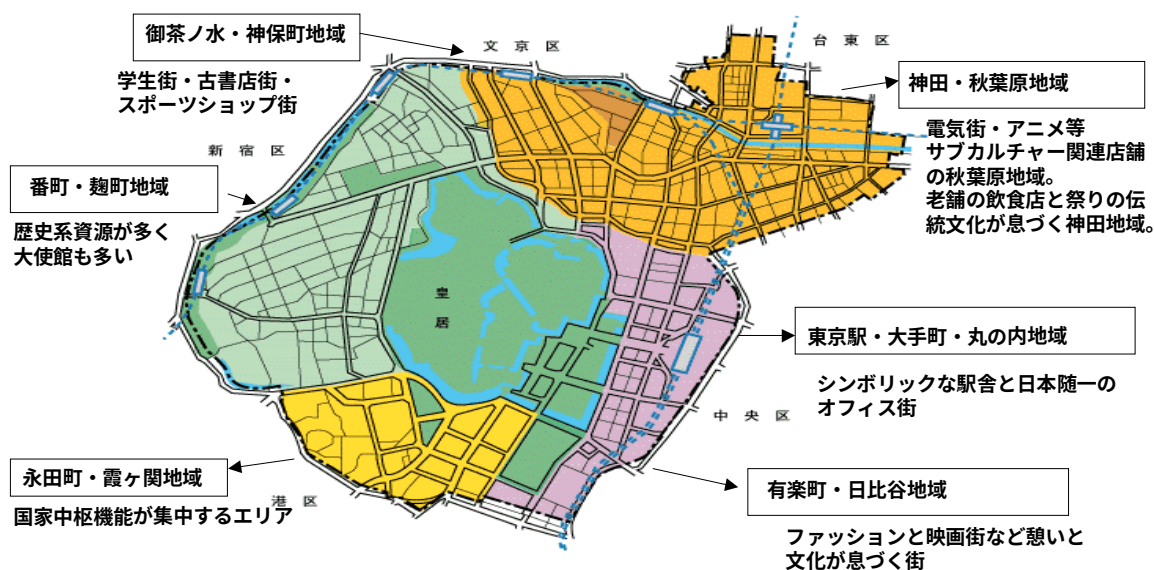
実証実験地域紹介 千代田区(東京都)

千代田区のイメージといえば、まず何を思い浮かべるだろうか？アキバ、古本屋、お祭り、官庁街、etc。図を見ていただくとお分かりのように、千代田区は、皇居というシンボリック的存在の周りに、独自の文化を生み出している地域が多数存在している。約12km²という狭い区域に、これだけの顔を有する場所も珍しい。さらにそれぞれの地域には多種多様なコミュニティ住民のコミュニティや商店街、1000近いNPOの活動、企業コミュニティなどが存在し、独自の活動が展開されている。

今回の実証実験では、このようなコミュニティの活動をサポートするツールとして、地域 SNS や電子アンケートシステムの活用可能性を検証することを目的としている。例えば、千代田区は、夜間人口が約4万人であるのに対し、昼間人口が約85万人と特異な人口構造になっている。この昼間区民の意見をいかに区政に反映するかが課題となっており、そのツールとしてICT活用が考えられる。現在の昼間区民は企業単位で独立しており、相互の交流や地域住民との交流はあまりない。この壁を突き破るツールとしても、ICTの果たす役割は大きい。

また千代田区では、大規模災害発生時に、昼間人口や来訪者の多くが帰宅困難者となることが懸念されている。これらの帰宅困難者に対して、災害情報、避難経路情報などの必要情報を適切に提供する手段のひとつとして、ICTの活用が考えられる。日常的に昼間住民同士や夜間住民との交流を持っておくことも、災害時の対応をスムーズにする効果が期待される。

図 特徴ある千代田区の各地域



資料: (財) まちみらい千代田

図 千代田区の特性

	地域特性	実証実験での狙い
大都市型 モデル	○昼夜間人口格差が大きい (夜間人口4万人に対し 昼間人口85万人)	→企業内で閉じているコミュニティを地域に オープン化
	○企業・大学・NPO法人などが集積し、人材の宝庫 ○昔からのコミュニティはあるが、 マンション等も増加 ○東京駅など全国からの来訪者が多い	→帰宅困難者への災害情報、避難経路情報の提供や安否確認などへの活用 →昼間区民の意見把握と人的資源の活用 →新たなネットコミュニティの形成 →グルメ、観光情報の提供などによる地域活性化

ICT住民参画事業への期待 石川雅己千代田区長インタビュー



— 地域への住民参加を考える上で、千代田区におけるポイントは
何でしょうか？

石川雅己千代田区長（以下、石川）

千代田区の場合、何を考えるにも、昼間区民（法人企業も含めて）との関係を抜きにして区政というのは意味を持たないですね。災害、安全・安心、産業振興でも、区民だけ対象にしても駄目で、当然、昼間区民との関わりを持って共に生きていきたいと思いますということを考えなければならないのが千代田区です。いざ災害が発生すれば60万人と言われる帰宅困難者が出るわけですが、そうなるとうち区民だけの話ではなく、地域社会を考えるときに、昼間区民と定住人口とが、お互いに関係が無いと言っては困るわけです。

またビジネスマンの方なども1日24時間のうち半分以上は何らかの形で千代田区で生活をしているわけですから、そこをきちんと考えなくてははいけません。その意味で、ICTというのは昼間区民の参加の大きなツールになると思います。

— 昼間区民との関わりが重要ということでしょうか？

石川 私、2期目の任期にあたり、「共生」を区政運営の基本理念に掲げました。共生というのは、当然、意見の違いや価値観の違いがあって、そういうお互いの違いを乗り越えて生きていくものです。私は、21世紀の社会の中で、この千代田区というところはそういう観点から、壮大な実験をする場だと思っています。ICTという言葉には、真ん中にコミュニケーションという言葉が入っているわけですから、ITでは一方通行的な部分があるけれども、ICTならば昼間区民と定住区民とをつなぐツールとして、昼間区民と夜間区民の共生を実現する上で、いろんな形で政策的に使えるものだと思います。

— 夜間住民についてはどうでしょうか？

石川 区民の居住形態の8割がマンション住まいです。隣近所との関係を構築したくない、と考えるのがいわゆるマンション定住者の方々の方々の考え方なのですが、それでは地域の絆というものが生まれません。いかにマンション族の方々と、区政情報も含めて、双方向コミュニケーションが取れるのか、ということが地域課題として取り上げられており、そういう面でもICTは、いろいろな仕掛けができるのではないかと思いますし、今回の実証実験でもいろいろと考えていければと思います。

— コミュニティがこれからの地域づくりの鍵になりそうですね。

石川 質の高い地域社会をつくるのはコミュニティで、そこをどうつくっていくか、ですよ。大都市になると、「遠くの親類より近くの他人」なんです。災害もそうです。それが質の高い地域社会や国民生活をつくることになると思います。

また横の連携ということ言えば、行政同士の姉妹提携というのは、もう古いんですよ。役人が行き来したところで何の役にも立たないですよ。問題は市民同士の絆というところでしょう。

— 最後に。

石川 最終的には、機械によるコミュニケーションというのは、あくまでもFace To Faceに結びつけるための手段であって、人のつながりや絆をつくるための一つの手段だと思っています。ICTというものも、やはり人と人との絆をつくる手段だと思っていますし、そういうことが実現できる社会になればいいと思います。

— 今日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

（本稿は2005年9月21日、千代田区役所にて、石川雅己千代田区長、総務省 牧情報政策企画官、防災科学技術研究所 長坂主任研究員で行った対談をもとに作成しました。）

実証実験地域紹介 長岡市 (新潟県)

新潟県長岡市。人口約 23 万人を抱え、新潟県第二の大きさを誇るこの都市は、まさしく地方都市と呼ぶにふさわしい。昔ながらの隣近所同士の付き合いも残っており、住民による野菜作りや日本酒作りなど、数多くの交流イベントも行われている。

このように地域コミュニティが健在する長岡市では、如何にコミュニティの活動を盛り上げられるかが重要になる。情報の交換や話し合い、友人との交流などを行うツールとして、地域 SNS や電子アンケートシステムに期待が寄せられている。

また長岡市は、今年四月に周辺5町村との合併を迎えたばかりである。新しい市の中で、旧市町村域を超えた交流を如何に行えるかも、ひとつのテーマとなっている。

2004 年、この地を二つの大災害が襲ったことは記憶に新しい。7 月 13 日、新潟・福島集中豪雨による水害。10 月 23 日、新潟県中越地震。町中が混乱する災害時、食料や水と同様に必要となるものが「情報」である。情報の提供者として、まず思いつくのは自治体やマスコミだろう。しかし、情報を発信するには、裏を取り、信頼性を確保しなくてはならず、必ずしも迅速に情報を提供することはできない。そこで、長岡市や周辺町村では、地域コミュニティが一役買った。NPO 法人「ながおか生活情報交流ねっと」が用意したブログに、住民が「××町の避難所に毛布 500 枚が届いています」「水は足りていますが、衣類が不足しています」といった現場の情報を書き込み、やり取りを行ったのである。このような経験を生かし、安否確認や避難場所情報の提供などに、SNS や電子アンケートの仕組みが如何に活用できるか検証を行う。特に SNS が持つ「日頃から頻繁に利用し、使い慣れている」という特性がどう生かされるか注目されている。

図 合併の様子 (合併前旧市町村名)



図 交流イベント (小松菜の収穫) の様子



資料: ながおか生活情報交流ねっと

図 長岡市の特性

	地域特性	実証実験での狙い
地方都市型 モデル	○地域コミュニティが健在 ○近年、大きな震災、水害を経験 ○合併による市域拡大 ○観光資源 (花火大会) や伝統産業の存在	→リアルなコミュニティを補完する場を提供し、より強固なコミュニティを形成 →これまでの取組みや経験を生かして、安否確認や避難場所情報提供などへの活用 →旧市町村域を超えた交流 →観光資源や特産品のアピールへの活用

ICT住民参画事業への期待 森民夫 長岡市長インタビュー



— 長岡市の場合、やはり災害時での活用が大きなテーマでしょうか。
森民夫長岡市長（以下、森） そうですね。災害時にはやはり、石井座長が仰る通り、「日頃から使い慣れたシステムを切り替えて情報共有する仕組み」が重要になると思います。

長岡市は実際に災害を経験しているので、その経験を生かすことができるでしょう。例えば、災害時の情報共有となると、停電の問題が頭に浮かびます。そこで、非常電源の備わった同報無線などに発想が行ってしまうのですが、実際の震災では停電している時間は短かったですね。

災害時の情報共有と言っても、災害発生直後の緊急情報だけでなく、その後の避難所に関する情報など、様々な情報のフォローが必要になります。そのようなフォローが必要な時期は、電力が2～3日で復旧した後、数ヶ月間にわたります。この時期には、同報無線ではなく、やはりパソコンや携帯電話が重要な役割を果たします。密度の高い情報を双方向でやり取りできることが、非常に有効ですね。

— NPO 法人「ながおか生活情報交流ねっと」が果たす役割は？

森 住民と行政のみの構図で、いきなり住民参画となると難しい面もあるでしょうから、これから NPO 法人などの役割は重要になってくると思います。

「ながおか生活情報交流ねっと」は去年の震災の際、災害情報の収集、提供など、行政だけではできない点をうまく補完してもらいました。また、「山古志村のマリと三匹の子犬」を出版した際には、インターネットを通じてイラストレーターを探し、編集もネット上で行ったそうです。このような面白い経験も生かしていけるのではないかと思います。

— 今回、「まちかどレポーター」という試みを考えています。普段は町のレポーターとして、美味しいお店の情報などを記事にしていますが、災害時には災害状況のレポーターになる仕組みです。

森 面白い試みだと思います。長岡市でも「まちかど情報員」という取り組みを行っています。各記事にレポーターの名前が記載されていれば、情報の発信者が誰かが分かります。そうすると災害時でも、「この人は普段から、良く取材をしているので、この情報は信頼できる」といった判断ができますね。情報の信頼性にも繋がります。

このような面白い試みを楽しくやっていきたいですね。楽しくないと普及しませんから。

— 本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

（本稿は 2005 年 9 月 16 日、長岡市役所にて、森民夫長岡市長、総務省牧情報政策企画官で行った対談をもとに作成しました。）

参考2 実証実験関係者座談会

■日時：2006 年 2 月 23 日（木）17:30～18:30

■場所：LASDEC 財団法人地方自治情報センター 7 階会議室

■参加者：

長岡市	ながおか生活情報交流ネット 桑原委員、高井氏 長岡市情報政策課 倉部主事
千代田区	まちみらい千代田 三浦氏 千代田区政策経営部 印出井主査
理論WG	東京大学大学院情報学環 助教授 田中主査 藤沢市市民自治部市民自治推進課 金子委員
システムWG	防災科学技術研究所主任研究員 長坂主査 株式会社 NTT データ システム科学研究所 高木委員 東京海上研究所 直井委員
事務局	総務省自治行政局自治政策課 牧企画官 財団法人地方自治情報センター 田幡氏 株式会社三菱総合研究所 村上、森崎（記録者）

村上：今日は、長岡市、千代田区それぞれの実証実験関係者にお集まり頂きました。お忙しいところありがとうございます。実証実験を通しての感想や、苦労したところ、良かったところなどを、ざっくばらんにお話頂ければと思います。
まず、長岡市からお願いします。

倉部：長岡市の倉部です。1月の市町村合併で異動になり、担当となりました。地域 SNS といったものには初めて参加しましたが、個人的には非常に楽しかったです。毎日見て、地域に触れる機会が増えたことが面白かったです。苦労した点は、行政からのお知らせの発信なども、最初は慣れず苦労しましたが、やはり一番はモニターの募集、登録ですね。特定モニターで、リーダー・ライターは送られてきたが、登録を行わない人もいました。パソコンやリーダー・ライターの設定トラブルも起こりました。結局、目標のモニター数に到達したのが実証実験期間のぎりぎりになってしまいました。



倉部氏

村上：高井さんは如何でしょうか。

高井：これまではもっぱらシステムを作る側でしたが、今回は初めて管理に携わりました。やはり慣れないことを行う苦勞がありました。活発な議論などもあり、どう言えば分かってもらえるか、かなり悩みました。途中、発言の仕方も厳しい口調になり、良くなかったかなと思っています。日記に比べて、コミュニティの書き込みが少なかったのも、コミュニティへの参加を誘導する試みがもっとできれば良かったと思います。実証実験の終了間際にコミュニティを広報するためのコミュニティを作りましたが、もっと早く思いついていれば良かったと思います。コミュニティのアクセス数のランキング表示やアクセスカウンターなどは面白いかもしれない。



高井氏

村上：コミュニティの広報という点では、藤沢の電子会議室ではどのように行っていますでしょうか。

金子：立ち上げた人が宣伝を行っていますね。チラシを作ったりもしています。

高井：チラシなど紙媒体のものは重要ですね。

村上：それでは桑原さん、如何でしょうか。

桑原：率直に、かなり可能性のあるシステムだと感じました。しかし、ユーザーインターフェースなど使いやすさの部分で、ユニバーサルデザインといった考え方が足りなかったと思います。これから公開されるにあたって、変えていきたいと思いますが、その部分が今後どのような展開になるか、今の段階では見えておらず、動きにくい点があります。また、運営に関しても、行政と財団や NPO 等の組織の位置づけや、特に運営資金をどうするかといった点が、まだまだ検討が必要だと思います。そのような情報がないと、今後導入を考えている地域も、なかなか行いづらいでしょう。



桑原氏

村上：システム面の改善は、来年度の事業でも検討されています。ユーザー会などを作りバージョンアップの費用を出し合い、ソフトウェアは共同アウトソーシングや、LASDEC のライブラリによって共有する形です。民間企業や NPO も、ユーザーコミュニティに参加して、そこで情報を共有する仕組みです。

村上：次に千代田区の印出井さん、お願いします。

印出井：たまたま偶然、関わることになりました（笑）。担当している1つ1つの仕事と地域 SNS の考え方と結びつけて面白かったものがあります。それが内部通報ですね。内部通報では、「和を以て尊し」だけでは組織が駄目になる、という考え方ですが、地域 SNS に参加してみて、「和を以て尊し」は良いのではないかと感じました。お互い忙しい中でこそ、隙間の時間を活用した日常的な信頼関係は重要になるのではないかと思います。



印出井氏

また観光の面では、在住者と在勤者が接点を持てたことが、やはり大きいです。実際に、モノを作るところまで進んでいます。私も区の職員という立場ではなく、同じレベルで、アイデアベースから話が出来ます。それを施策に繋げていけば良い。例えば今、桜を使ったシティプロモーションを考えているのですが、地域 SNS でも議論されていて、「常に様子が見られるウェブカメラが欲しいよね。」「ウェブカメラって意外と安いよ。」「〇〇会社に勤めている〇〇さんに言えば、もっと安くなるんじゃない？」といった会話が進んでいます。そのような会話の発展、プロセスが非常に面白かったですね。

村上：内部通報そのものに地域 SNS が使えるんじゃないでしょうか（笑）。では、三浦さんお願いします。

三浦：印出井さんが殆ど全部、話してくれました（笑）。一番の成果は、今回の実証実験で、財団や行政自体が変わってきたことだと思います。行政の職員でありながら、昼間区民として色々な意見を言うてくれました。そこから動きが生じ、地域の人々が反応する。財団の職員の意識も変わった。地域をプロデュースする立場として、地域 SNS を通じて、もっと住民と行政を繋いでいきたいと思っています。とても有り難いことに参加させて頂いたと思っています。苦労した点としては、最初の頃、環境が整っておらず、最初の取組みということもあって、色々な事例などを見せて話をすることができなかったことがあります。



三浦氏

村上：行政と財団が結びついた具体的な事例はありますか。

印出井：本来の目的であった防災や災害対策の面では、残念ながら行政も既存の問題を処理するだけで手一杯で、協力が得られない部分が大きかったです。しかし一方、産業振興や地域振興は、職員としても面白いテーマで、様々なアイデアを出すなど、取り組みやすい。

「まちの記憶プレート」の取組みも、ちょっとしたアイデアから始まり、地域 SNS でデザインのアンケートなどを行いました。

三浦：子供の安心・安全の関係では、教育委員会と連携しました。

印出井：地域 SNS はどこにターゲットを絞るかが重要だと感じます。総合的に全て行うことは難しいのではないのでしょうか。例えば年齢が低い層は、本当に実態を把握している人が別の地域 SNS を運営し、その地域 SNS とリンクするといったことも考えられます。また、IT リテラシーが比較的低い人をどう巻き込むかも重要ですね。千代田区では財団で、地域サイトと地域 SNS の連携で実現を図っています。

三浦：地域サイトは、外に向けてのプロモーションが特に重要であると考えております。自分たちが行っていることを、外に伝えていくサイトとして、IT があまり使えない人にも取材をして、コンテンツを作成していきます。来月からは、町会の連合町会長を取材し、地域の魅力を紹介するシリーズを始めます。

村上：それでは、千代田地域 SNS でコミュニティを運営された田中さん、感想などを頂けますでしょうか。

田中：「ICT 住民参画／千代田」というコミュニティを開設・運営しました。参加いただいた方の人数は多かったのですが、書き込みをするアクティブな人は限られていたように思います。もしかすると、千代田区の住民参画がテーマと誤解された面があるのかもしれません。管理者として話題提供などのフォローがもっとできれば良かったと思っています。また公開範囲の設定など、管理者として完全に分かっていなかった部分もありました。それでも運営は何とかなりました。コミュニティの開設・運営は気軽にできると実感しました。



田中氏

村上：書き込みが減ったことは、似たようなコミュニティが他にも沢山出来、どこに書き込むべきか分からなくなったこともあるのではないのでしょうか。とてもしっかりと管理されていたと思います。

村上：長岡地域 SNS でコミュニティを運営されたほか、まちみらい千代田のアドバイザーもされている長坂さんはいかがでしょうか。

長坂：行政や財団が地域のことを、今までも色々な視点で見てきましたが、そこに新たな視点が加わり、広がったのではないのでしょうか。行政のHPやコミュニティサイト以外に、インタラクティブを持つ場として地域 SNS が出てきた。地域 SNS については、短期間で評価するものではないと思います。そのためにも、コストの面で無理せずに運用していけることが重要になります。

また、書き込みに関してですが、見ているだけの ROM も重要な役割を担っているのではないのでしょうか。例えば行政職員が、余り口出さない距離感も必要かもしれません。

そして今後は紙媒体など他のメディアとどのように連携してコンテンツを広めていくかも重要になると思います。例えば、コミュニティの RSS 情報を紹介するサイトの作成や、新しくできたコミュニティの管理者へ取材したことを紙媒体で広めるといったことが考えられます。そのことが、地域の問題解決力に繋がっていくのではないのでしょうか。



長坂氏

村上：ごろっとやっちょろ（八代市の地域 SNS）の参加者に先日お話をお聞きした際も、市の広報誌にコミュニティを紹介して欲しいとおっしゃっていました。地域間交流としては、どういうことができたでしょうか？

桑原：千代田、長岡の所謂「裏方」となるコアな人が集まり、地域 SNS 上で企画を考えるなどしています。トラックバックで、お互いの地域 SNS のコミュニティを繋ぐ試みも行っています。

三浦：先程、話に出ました桜のイベントや、グリーンツーリズムなどで、トラックバックを利用しています。掛川や札幌市など、外部の地域の方も、参加されています。地域間交流では、各地域の祭りは良いテーマになると思います。

印出井：千代田区は東京の他の地域と比べても、観光スポットとしてのアドバンテージはあまり無い。しかし、日本の中の千代田の位置づけを考えた場合、日本の中心は東京であり、では東京の中心はどこかとなると、千代田区が連想されます。中心性のアドバンテージを活用できないかと考えています。例えば、全国各地の美味しい料理を集めたり、「お酒ウィーク」としてお酒を全国から集めたりといったイベントも考えられるのではないでし

ようか。

三浦：実際にコミュニティでそういったアイデアが出てきた際に、すぐ現実の活動に結びついていくことが凄いと感じました。例えば「千代田で迎車ができるタクシー会社の一覧が欲しい」という意見が出ると、そのための携帯電話用サイトを誰かがすぐに作ったことや「千代田から終電でどこまで行けるのだろう」といった話題が出た際に、全国に行ける範囲を実際に誰かが調べたといったことがありました。そこからまた話題が繋がっていきます。

村上：限られた人だけでなく、色々な人が話せるということも大きいですね。

桑原：地域 SNS を眺めると、どのような団体がどのような活動をしているかが分かります。そして地域間でお互い見えるようになると、自然と交流が進みます。全国的に広がりを見せると、非常に画期的なことになりますね。

長坂：姉妹都市や観光協会の単位ではなく、もっと狭い単位で交流ができることが大きな特徴でしょう。役所を通さずに、地域の異なる農家同士が繋がることや、生産者と消費者が直接繋がることが実現できるのではないのでしょうか。

村上：広域での連携と関連しますが、長岡では実証実験期間中に合併を経験されましたが、いかがでしたでしょうか。

桑原：「長岡検定」というコミュニティを立ち上げ、色々な人が合併地域も含め、地域に関心を持ち、問題を作りました。他の地域では、何百万といったお金や、半年、1年といった単位の時間をかけて同様のことを行おうとしていましたが、地域 SNS では直ぐに出来てしまった。合併した地域で色々こだわっている人は居ますが、そのこだわりも地域 SNS のひとつの話題として、話し合ったり、情報を共有したりできると思います。

村上：高木さんは WG 委員として参加されていて、いかがでしたでしょうか。

高木：一人の利用者として地域 SNS に参加し、千代田地域 SNS で2つのコミュニティを作成しました。ひとつは地域で絞った「神保町が好き」というコミュニティ、もうひとつはテーマで絞った「ウィンタースポーツ」というコミュニティです。地域で絞る場合と、テーマで絞る場合でどう違うかを見てみました。「神保



高木氏

町が好き」コミュニティでは、神保町には色々な面があるので、話題を作ることが難しかったですね。間口が広い分だけ、比較的多くの方に参加していただいたのですが、書き込みが多いわけではなかったです。必ずしも情報交換をすることだけが目的ではなく、コミュニティに所属することで思いを共有するという使い方もあるのではないかと感じました。「ウィンタースポーツ」コミュニティでは、比較的活発な情報交換がなされました。こちらはテーマ別のコミュニティですが、「千代田の地域 SNS に参加している」ということを共通認識として持っていることが重要だったと思います。オフ会なども行いましたが、ウィンタースポーツという枠を通じて、千代田区で活動している人たちと出会えたことは、嬉しいことでした。このような新しい繋がりが出来たことは大きな成果だったと思います。

村上：次に金子さん、お願いします。藤沢と違った点など、なかったでしょうか。

金子：ツールとしては、徐々に良い物になってきたと思います。運営の部分、費用の部分でどのように仕組みを作っていくかが重要だと思います。例えば、積極的に地域 SNS で仕事を生み出して行こう、といった発想があっても良いと思います。コミュニティの管理については、皆が気軽にコミュニティを立て、必要な場がすぐに作れているのが良いことだと思います。今後はコミュニティの管理者同士の情報共有や、ノウハウを交換する場が出来ると良いかな、と感じます。



金子氏

村上：藤沢の市民電子会議室で、新しい会議室を作ることとは気楽ではないのでしょうか。

金子：確認を含めて3日間程度かかる場合もあります。電縁マップでは、システムの面も含めて2週間程度かかることもあります。その間に話したい熱が冷めてしまうことも起こってしまいますね。

「地域 SNS はこうでなければならない」「地域 SNS を使わなければならない」といった考え方ではなく、たとえ違うシステムに発展していても、「地域のニーズが、そういうモノだったのだ」と考えていくことが必要だと思います。

村上：ツールの使い分けという点では、直井さん、感想など頂けますでしょうか。



直井氏

直井：その地域 SNS に誰が居るかは大事ですね。色々な人を誘いましたが、その SNS に知っている人が居ないことは、やはり大きな障壁になっているようです。私自身は、地域 SNS では実際に会ったことのない人からのリクエストが多くありました。mixi では会ったことのない人からのリクエストには答えていませんでしたが、地域 SNS では、地域への共通の興味や、同じ地域で働いていたりなど、地域の持つ連帯感のようなものを感じて答えました。ユニークな地域の繋がりを重視する地域 SNS だからこそ参加したいという人は居ると思います。その強みを活かしたいですね。個人的にはコミュニティにメールから写真を投稿できる機能は、非常に活用できると思います。

村上：牧さん、いかがでしたでしょうか。

牧：全国いくつかの地域で講演をしたのですが、非常に熱意を持って聞いて頂けました。ICT を活用した住民参画というテーマについては、やはり全国の各地域に興味や熱意を持った人がおられました。千代田の地域 SNS には、やはり仕事などで千代田に縁がある人も多く、講演を聴いた人にも沢山人っていただいたようです。

地域 SNS には会社など組織の壁を越える可能性がありますね。会社内外のコミュニケーションに有効だと思います。また、友達を介しての信頼性も大きな特徴でしょう。「〇〇さんの友達だから」ということで、私の友達同士が、それまで会ったことが無かったのに、いつの間に



牧氏

か友達になっていたということがありました。人間と人間のネットワークの基本として、やはりこの人の友人ならという信頼感が重要だということでしょう。金子郁容先生からいただいたお話ですが、人と人とのコミュニケーションは、範囲を狭く絞ると深くなります。単に人数を増やすだけでなく、どれだけコミュニケーションを深めていけるかが今後は重要でしょう。情報としても、どこにでも公開されているような情報より、知る人ぞ知る深い情報の方が、ずっと価値があります。広く皆さんに見てもらいたい情報発信と、コミュニティに限定した密度の濃い深いコミュニケーションを、ひとつのサイトで実現できることが地域 SNS の長所のひとつなのではないでしょうか。

日記などにちょっとでも良いので、コメントがあると嬉しいですね。「ごろっとやっちょろ」では、皆さんの日記にちょっとしたコメントをつけて盛り上げに貢献している人がいます。そうしたうまい場作りができる人が複数いると良いと思います。

今回の実験では、こうした素晴らしい参加者に恵まれたことが、成功のカギだったと思っています。皆様、ありがとうございました。

長坂：島田市でも、ちょっとでも声をかけるという動きが重要視されていますね。

牧：八代市の小林さんに伺った話ですが、個人個人が一番関心を持っていることは「自分の発言に対する人の反応」です。地域 SNS では新着情報の表示や足跡などで、「自分の発言に対する人の反応」を見ることができます。それがついつい気になって、アクティブユーザーが増えていく面があると思います。ログインすれば自分の関心事項がマイページで一覧できる、そんな地域 SNS は個人のポータルサイトに育っていく可能性があると思っています。

村上：お伺いしたいことは、まだまだありますが、時間となってしまいました。本日はどうもありがとうございました。

全員：ありがとうございました。